

# ピアサポート・プログラム報告書

## 第5号

2014年3月

お茶の水女子大学学生支援室  
ピアサポート・プログラム連絡会議

## 目 次

1. お茶の水女子大学全学ピアサポート体制の概説 2011年度-2013年度 .....	加賀美 常美代	1
2. 各部局の取り組み		
I 文教育学部 文教育学部活動報告 (2011年度-2013年度)	安 成 英 樹	3
II 理学部 理学部活動報告 (2011年度-2013年度)	吉 田 裕 亮	36
III 生活科学部 生活科学部活動報告 (2011年度-2013年度)	仲西正・太田裕治	42
IV 全学留学生 グローバル教育センター活動報告 (2011年度-2013年度)	加賀美 常美代	54

# お茶の水女子大学全学ピアサポート体制の概説

2011年度－2013年度

全学ピアサポート連絡会議リーダー：文教育学部 教授 加賀美 常美代

## 1. ピアサポートの発足の背景

お茶の水女子大学は小規模大学であるがゆえに、もともと学生同士、教師と学生との距離があまりなく、お互いに交流しやすい土壌があった。そのため、学部や講座、留学生関係部署等でそれぞれの学生のニーズに応じて、様々な形で学生による学生のための援助が内発的におこなわれており、そのような活動には教員が指導しながら関わってきた。しかしながら、昨今、学生たちも多忙であり、一時的な交流に終わってしまうこともあり、学生同士の相互交流の伝統継承を促進させるためには組織的にシステムとして行う必要性があった。そこで2004年当時の副学長が各学部、留学生支援のピアサポートを担当する教員に相談したことを契機に2004年度から、全体のピアサポート・プログラムの取り組みとして位置づけ、学生支援室を中心に全学ピアサポート連絡会議が発足した。

## 2. 全学ピアサポート連絡会議の経緯と連携

2004年度から全学ピアサポート連絡会議が発足し、今年度で10年が経過した。連絡会議は各学部から代表される学生支援の担当教員が集まり、全学のピアサポートに関する協議をすることが目的である。発足当時は、各組織が「ゆるやかな関わりと連携」を強調した。また、その理念は、それぞれの組織（学部等）の学生支援の目標、方法、支援体制など個別性、独自性を尊重することを掲げた。一方で、大学全体のピアサポートの枠組みを模索していくこととした。つまり、学部、センターなど組織の個別の理念と共有する理念を全学ピアサポートが融合したものにしていくことである(加賀美, 2005)。

このような流れの中で、ピアサポート・プログラム報告書、第1号、第2号、第3号、第4号の発行を経て、徐々に個別の組織の独自性尊重を超えて、全学の取り組みを共通課題として、各学部等の代表者により学部等の情報を交換し、共有するようになってきた。このことが、ここ10年の全学ピアサポート体制構築への流れであり特長であろう。

## 3. 2011年度、2012年度、2013年度の全学ピアサポート連絡会議

2011年度、2012年度および2013年度の各学部・全学留学生担当のピアサポート委員は、文教育学部は安成英樹、生活科学部は仲西正(2011年度)、太田裕治(2012～2013年度)、理学部は吉田裕亮、全学留学生は加賀美常美代である。また、ピアサポート連絡会議の参加メンバーは、上記の教員に加え、学生・キャリア支援室の室長、学生・キャリア支援チームリーダーと担当職員により実施された。

各学部等および全学ピアサポート体制の向上のため、2013年度は年1回の連絡会議を実施し、それぞれの組織の前年度の報告と当該年度の事業計画などを紹介し、各学部や講座の個別の取り組みに関する意見交換を行った。また、ピアサポート・プログラム報告書第5号に関する内容や今後の方向性について意見交換を行った。その結果、これまで継続的に隔年に行っていた報告書発行についての変更を行った。変更点は、印刷媒体で発行した報告書を3年おきを実施すること、印刷をやめてweb上でHPへの公開することである。さらに、2012年度からは各学部等へのピアサポート事業への補助金が開始され、ピアサポート同士の交流がより充実したものになったことも付加したい。

#### 4. 今後の課題

以上のとおり、全学のピアサポートが、学生・キャリア支援室の中の活動およびシステムとして、各学部組織間の実践を通して、それぞれが共有しながら全学の取り組みとして実体化し定着化してきている。それが大学としてこの10年間の大きな成果といえるであろう。各部署はそれぞれの学生ニーズに応じた活動が継続的に実施され蓄積され、全学的にその重要性は認知されてきているので、今後はそれぞれの抱えている個別な問題の解決に向けた多様な取り組みや活動の修正は必要とされるであろう。

このように、これからも当初の理念のとおり、「ピアサポートは学生による学生のサポート」であり、それを教員が支えていくという姿勢を貫くことがこれまでのお茶大のやりかたであることに変わりはないと考えられる。こうした学生による学生のための支援は、専門家による学生支援とともに確実に学内に根づいてきている。今後も、学生へのピアサポートのあり方を教員と学生、学生同士でじっくり話し合いながら進めるとともに、各組織の活動における情報の共有と連携を重視していくことが重要であろう。

#### 参考資料

お茶の水女子大学 ピアサポート・プログラム報告書 第1号 2005年3月

お茶の水女子大学 ピアサポート・プログラム報告書 第2号 2007年3月

お茶の水女子大学 ピアサポート・プログラム報告書 第3号 2009年3月

お茶の水女子大学 ピアサポート・プログラム報告書 第4号 2011年3月

加賀美常美代 2010 「お茶の水女子大学ピアサポート体制の事例紹介-全学的

取組と留学生支援を中心に」『大学と学生』 87号 (通巻561号) pp22-29

## 各部局の取り組み



# I 文教育学部





## I 文教育学部

### 文教育学部ピア・サポート・プログラムの取り組み

#### 活動報告（2011年4月～2014年3月）

文教育学部教授 安成英樹

(2011～2013年度 文教育学部ピア・

サポート・プログラム運営委員会委員長)

#### 1. 制度の沿革

文教育学部では2003年度より、新入生が大学生活をスムーズにスタートすることができるように、ピア・サポート・プログラムを開始した。当初このプログラムは、時代の変化に伴い今後新入生に対するさまざまな面からの支援・サポート体制を設けることが必要かつ有効になってくると考えた教員有志、またその趣旨に賛同してくれた上級生が自発的に名乗りを挙げて組織化されたヴォランティア的要素の強いものであった。2013年度で本プログラムは発足から11年が経過したことになる。発足当初から2007年3月までは、中国語圏言語文化コースの宮尾正樹教授が長らく運営の中核（後述のコーディネーター）を担い、ついで2007年度から筆者がその任を引き継いで今日に至る。なお、本報告については、2009～2010年度、あるいはそれ以前の活動報告としてまとめたものと大勢においてそれほど大きく変わっていないこと、制度概要や問題点についても前活動報告との重複を恐れず記述していることを、あらかじめ断っておく。

#### 2. プログラムの仕組み

ピア・サポート・プログラムの実行組織・実施方法の骨格は、基本的に制度発足時と大きく変化したところはない。一人の上級生(=サポーターと呼称する)が、新入生数人(学科や年度によって異なるが、通常は3～6人)を受け持ち、これをプログラムの基礎=最小単位(PSグループ)とする。サポーターは新入生に定期的にメール等で様子を訪ね、また昼休み等に一緒に昼食をとるなど極力直接に顔を合わせる機会を設け、新入生の抱えている疑問や相談に迅速に応える。また、対処できないような質問などには、解決しうるルートを指し示す。すなわち当該問題の解決に適切な知見をもつ教員との間を仲介したり、事務の諸窓口とともに相談しにいたり、その情報に詳しい他のサポーターや友人を紹介したりといった具合である。たとえば実際に非常に多い事例であるが、教職課程や学芸員課程についての質問であれば、現在当該資格課程を実際に取得途中であるサポーターや同級生などに橋渡しして直接質問できるようにする、といった具合である。

各サポーターには教員(文教育学部の場合、当該新入生の学年担当教員全員および有志の教員)がアドバイザーとして配置されており、サポーターレベルで解決できない問題について即時、気軽に相談に乗れるようにしてある。質問や問題がある場合、サポータ

一は自分の所属コースの教員＝アドバイザーだけでなく、他コースのアドバイザーにも自由に相談できる体制をとっている。また、コーディネーター（本プログラム責任者の呼称、すなわち筆者）にも直接なんでも相談できるようにしてある。要するに、サポーター、アドバイザーをコース縦割りではなく横にも斜めにも結びつことが可能な、有機的なかたちで配置し、新入生の多様なニーズに柔軟かつスピーディーに対応できるように制度設計しているのである（ただし実際どこまでそれが有効に機能しているかについては疑問がある。後述のアンケートを参照のこと）。

新入生の抱える問題は、新生活への不安、大学生活への適応（とりわけ初めての時間割の自主的編成）、学内外の生活やアルバイト、大学での勉学の仕方、ひいては進学、就職（昨今の社会情勢下、この問題への関心は極めて高い）、将来についての漠然とした不安、など多岐にわたる。とくにメンタルな問題や人間関係などサポーター個人が背負い込むには重すぎる問題が生じかねない。したがって、サポーターには、受け持ち新入生のプライベートに過度に介入しないこと、新入生の苦境や悩みに過度にコミットして一緒に「巻き込まれない」ようにすることなどを、研修会の際にとくに強く伝えている。またこうした事態が生じないように、各アドバイザーは受け持ちのサポーターおよび PS グループの現状を適切に把握しておく必要がある。こうしたサポーターおよびアドバイザーの総合調整役＝本学部のピア・サポート総括責任者として、コーディネーターがプログラムの全体を統括する。とくに 2011 年度は新学期直前に東日本大震災が発生し、余震が頻発し世情騒然とするなかでの新学期スタートとなった。新入生のみならずサポーターについてもメンタルな面での配慮がまさに必要であったことを付記しておく。

また、文教育学部内には各学科から 1 名ずつ選出された運営委員で構成されるピア・サポート・プログラム運営委員会が組織され、当該委員会がピア・サポートの運営に責任を持つ。コーディネーターと運営委員長はこれを兼務するのが慣例となっている。しかしながら、実際のところ運営委員会はあまり機能していないのが近年の実情である。

### 3. ピア・サポート活動の実際

文教育学部のピア・サポート・プログラムは、新入生に対する新生活への適応支援・トータルケアに全力を傾注するという本来の主旨からして、主たる活動期間を 4 月中と限定し、入学式からの約 1 ヶ月に持てる力のほとんどを投入するかたちで活動してきた。とくに入学式後の新入生とピア・サポーターとの顔合わせを行った後、マルシェでの懇親会（履修相談会）を経て、授業開始からゴールデンウィークに入るまでの 3 週間余が文教育学部でのピア・サポート活動の核をなしている。サポーターについては、制度発足当初は主として学生からの希望者を募ってこれに充てていたが、結局任意の立候補方式ではサポーター募集がままならないこと（立候補が少なく必要人数の充足が困難なこと、時間がかかること）、募集側の負担が大きいことから、必要なサポーター数を確保するため、学科（実

際にはコース)ごとに割当人数をおおよそ決め、各コース教員(主任)に依頼して振り当て人数分のサポーターを選出する形式となっている。おおよそ前年度の2月中旬まで各コースでサポーターを選出し、コーディネーターに連絡先などの情報を集約する。ちなみに、各年度とも文教育学部全体で50名余の学生(主として3年生、年度順に50名、53名、51名。学部1学年の約4分の1に相当)がピア・サポーターとして参加してくれた。

3月末に新入生の名簿が確定すると、コーディネーターは教務チームから新入生名簿を受け取り、それをもとに各コース選出のサポーターに新入生を数人ずつ機械的に割り付けて当該年度のPSグループを確定する。

ついで、入学式直前に学部のサポーター全員を招集し、ピア・サポートに関するガイダンス=研修会を実施する(アドバイザーも極力出席してもらおう)。研修の時間はせいぜい1時間半程度で十分とはいえないが、ここではサポーターとしてなすべきこと、してはならないこと、などを前年のアンケート結果などを参照しつつ具体的事例を挙げながら説明し、サポーターからの質問を受ける。この3年間、研修会ではとくに少なくとも週に1回以上のメールでの連絡をとること、また必ず一回は受け持ち新入生と直接顔を合わせて相談に乗る機会を作ること、をサポーターに対して強く要請した。

そして入学式からその後の学部ガイダンスまでのあいだに、サポーターとその受け持ちの一年生との顔合わせ(連絡先=携帯電話アドレス・電話番号等の交換)を行い、まずは携帯電話メールのやりとりを介してピア・サポートを開始する。サポーターは受け持ちの新入生とメールで相談に乗り、質問に答え、さらに昼休みなどに直接会って相談に乗ったり有用な情報を教えたりといった活動を随時展開する。とくにおのおののPSグループで一緒に集まって、昼食を取りながら相談するという形式がかなり広く見られるようになってきた(人文科学科については、筆者の研究室等を昼休みの会合のために可能な限り開放している)。とくに2~3のPSグループが合同で集まると、新入生は複数のサポーターからさまざまな情報が得られるので効果的である(この方式を毎年研修会で強く推奨している)。なお、4月中にはピア・サポート・プログラム主催の懇親会を行うのが慣例となっている。2011年度は震災の影響があり、また2012年度以降は入学式を始め入学行事が前倒しになったこともあって、新入生が出席しやすい日時を勘案して、過去三年間はいずれも文教育学部オリエンテーションの翌日の15時から大学生協食堂マルシェで行うようにした(この時期は理学部・生活科学部がオリエンテーション合宿に行っている時期にあたる)。2010年度までは懇親会会場として文教育学部第一会議室などを使っていたが、年々懇親会参加者が増えて収容しきれなくなっていて、マルシェでの開催とした(マルシェも授業開始前は短縮営業であり、この日程であれば貸し切りが可能)。その結果、参加は任意にもかかわらずこの3年間で年々参加する新入生が増加し、2011年度は160名以上、2012年度は180名程度、2013年度には新入生217名中190名余の参加を得るに至っている。懇親会と称しているが前半は実質的な履修相談の場として機能しており、新入生にとってはさ

さまざまな情報収集と相談ができ、とくに翌日以降にすぐに必要となる時間割編成の貴重な機会となっている（通常、懇親会翌日から前期授業開始となるため、翌日午前中にどの授業に出るかを新入生は決めなければならない。したがってこの日時設定は新入生にとっても非常に好都合であると思われる）。

ゴールデンウィーク明けからは徐々にピア・サポートの活動を縮小させ、新入生からの質問に適宜対応するといった程度になる。サポーターには、週に一回程度メールで様子を聞くように依頼しているが、どの程度のリアクション(需要)があるかは不明である。なお、7月上旬に文教育学部1年生全員に対して、ピア・サポート・プログラムの実施状況や意見を聞くためのアンケート調査を実施している。

なお、過去3年間における具体的な活動日程は以下の通り。

## 2011年度

- |               |   |
|---------------|---|
| 2011年1月       | 2011年度サポーターを募集（各コースに推薦依頼）   |
| 2011年3月       | 各コースのサポーター決定、総勢50名<br>下旬にメールで研修会の告知、出欠確認  |
| 2011年4月4日     | 10:30～12:00 第1回サポーター研修会実施<br>文教1号館301教室、20名程度参加                                   |
| 2011年4月5日     | 10:30～12:00 第2回サポーター研修会実施<br>文教1号館302教室、20名余参加                                    |
| 2011年4月6日     | 入学式、新入生とサポーターとの顔合わせ<br>研修会に出られなかったサポーターに対し個別の研修を実施                                |
| 2011年4月8日     | 学部オリエンテーション、新入生とサポーターとの顔合わせ   |
| 2011年4月11日    | 15:00～17:00 文教育学部ピア・サポート懇親会<br>会場マルシェ、新入生約160名余、サポーター30名余、<br>教員若干名が参加、学長・学部長から挨拶 |
| 2011年4月12日    | 授業開始、実質的なピア・サポート開始<br>(メール、実際に集まったの履修相談等)   |
| 2011年5月(連休明け) | 本年度のピア・サポート活動の実質的終了   |
| 2011年7月       | 1年生に対しピア・サポートのアンケート調査を実施<br>「情報処理演習」各クラスで実施、回収、データ入力・集計作業                         |

## 2012年度

- |           |  |
|-----------|--|
| 2012年1月   | 2012年度サポーターを募集（各コースに依頼）                  |
| 2012年3月   | 各コースのサポーター決定、総勢53名<br>下旬にメールで研修会の告知、出欠確認 |
| 2012年4月2日 | 10:30～12:00 第1回サポーター研修会実施                |

- 文教1号館302教室、20名余参加
- 2012年4月3日 10:30~12:00 第2回サポーター研修会実施  
文教1号館302教室、25名程度参加
- 2012年4月4日 10:00~11:00 第3回サポーター研修会実施（臨時）  
文教1号館511室（安成研究室）、5名程度参加  
入学式、新入生とサポーターとの顔合わせ  
研修会に出られなかったサポーターに対し個別の研修を実施
- 2012年4月9日 学部オリエンテーション、新入生とサポーターとの顔合わせ
- 2012年4月10日 15:00~17:30 文教育学部ピア・サポート懇親会  
会場マルシェ、新入生約180名、サポーター30名余、  
教員若干名が参加、学長・学部長から挨拶
- 2012年4月11日 授業開始、実質的なピア・サポート開始  
（メール、実際に集まったの履修相談等）
- 2012年5月（連休空け） 本年度のピア・サポート活動の実質的終了
- 2012年7月 1年生に対しピア・サポートのアンケート調査を実施  
「情報処理演習」各クラスで実施、回収、データ入力・集計作業

## 2013年度

- 2013年1月 2013年度サポーターを募集（各コースに依頼）
- 2013年3月 各コースのサポーター決定、総勢51名  
下旬にメールで研修会の告知、出欠確認
- 2013年4月2日 10:30~12:00 第1回サポーター研修会実施  
文教1号館302教室、23名参加
- 2013年4月3日 10:30~12:00 第2回サポーター研修会実施  
文教1号館302教室、10名参加
- 2013年4月4日 10:30~12:00 第3回サポーター研修会実施  
文教1号館302教室、16名参加  
入学式、新入生とサポーターとの顔合わせ
- 2013年4月8日 学部オリエンテーション、新入生とサポーターとの顔合わせ  
追加研修(2名対象)を実施、サポーター全51名への研修終了
- 2013年4月9日 15:00~18:00 文教育学部ピア・サポート懇親会  
会場マルシェ、新入生約190名以上、サポーター40名程度、  
教員若干名が参加、学部長から挨拶
- 2013年4月11日 授業開始、実質的なピア・サポート開始  
（メール、実際に集まったの履修相談等）
- 2013年5月（連休空け） 本年度のピア・サポート活動の実質的終了

2013年7月 1年生に対しピア・サポートのアンケート調査を実施  
「情報処理演習」各クラスで実施、回収、データ入力・集計作業

#### 4. 評価、問題点、課題

本プログラムは、開始から丸11年がすぎ、少なくとも制度として学生・教員からともに十分に認知され、また新入生のセーフティーネットとして一定の役割を果たしてきたことは確かである。しかしながら、2007年度以降7年間にわたり、実際にサポートを受けた1年生に対して夏休み直前にアンケート調査を行ったが、そこからは本プログラムがさまざまな、かつ深刻な問題（欠陥）を抱えていること、そしてその大半は未だ未解決であることが浮き彫りになっている。以下、適宜2011～2013年度のアンケート結果を踏まえながら、さまざまな角度から問題点を指摘したい(集計結果の詳細は章末参照)。

第一に、ピア・サポート・プログラムの意義は十分認知され、かなり肯定的に評価されているように思われる。まずピア・サポートの活動実態であるが、新入生が受けたサポートとして、メールでのやりとりが1回以上あったと回答した学生は、2011年度156名(回答者数の87.2%、以下パーセンテージは、回答者総数に対する割合を示す)、2012年度156名(81.3%)、2013年度は133名(71.9%)であり、5回以上のやりとりをした学生も相当数存在する(各年度21名、26名、7名)。なお2013年度については(これ以外の評価も)総じて若干低い数値となっている。ここでもっとも留意すべき点は、一度もメールを受け取っていないという学生が相当数いる点である(年度ごとに22名、35名、51名)。これは、実際にはメールを受け取っていたのにそのことを忘れた、連絡その他のミスで届かなかった(たとえば受信拒否設定になっていたなど)、など様々な要因が考えられるが、一方でサポートを全く行わなかったサポーターの存在を十分に予測させるものである。また、直接会ってサポートを受けた回数については、1回以上と回答した学生が149名(83.2%)、143名(74.5%)、129名(69.7%)となっている。直接会う機会をもって欲しいという研修会での要請は、かなり充足されていると見るべきであろう。他方、直接会う機会はなかったという回答がそれぞれ、29名、43名、55名あるが、これは会合が設定されたのに行かなかった(行けなかった)のか、それともサポーターからの誘い自体がなかったのか、判然としない。しかし、あとで見るように「全くピア・サポートを受けなかった」とする回答が一定数あることから、サポート内容の実際についてはよりシビアに見ていく必要を感じさせる。また、前述のごとく各年度のピア・サポート懇親会に多数の新入生およびサポーターが出席してくれた(以上、アンケート問(1))。新入生の感想(アンケート問(4))を読むと、この懇親会の場が、時間割作成などで実際に大変役に立ったという指摘が多く寄せられている。また、具体的な相談や心配事がなくても、いつでも相談できることが安心感に繋がったという感想が多数寄せられている。新入生の大学生活スタート時のセーフティーネットとしての役割を、本プログラムが十分に果たしていることの証左といえよう。

なお、この懇親会が年々参加規模を大きくしていることが、メール連絡や直接会っての相談の比率を下げている要因の一つと考えられる。すなわち、新入生にとって必要な情報などはこの懇親会である程度取得できてしまい、授業開始後のピア・サポートをさほど必要としなくなっているという可能性である。

ピア・サポートという試み自体についての評価はどうであろうか。この点については、新入生はおおむね好意的であり、履修相談、時間割の組み方などに適切な助言が得られたとする意見が多くみられた。アンケート問(2)において、ピア・サポートは、「とても役に立った」「少し役に立った」の合計は、年度順に146名(81.6%)、153名(79.7%)、145名(78.4%)と高い数値を示しており、かなりの新入生が本プログラムに対して好意的な評価を下していると思なして良いだろう。この各年度とも約80%という数字は、かなり誇っていいことだと思っている。また、次年度以降プログラムを実施すべきかについても、「是非実施すべき」「実施した方がよい」をあわせて138名(77.1%)、163名(84.9%)、141名(76.2%)となっており、新入生が本プログラムを肯定的に評価していることがわかる(アンケート問(3))。なお、過去3年間のうち、2012年度については、本プログラムについての評価が非常に高い数値となって表れており、この2012年度ピア・サポートの運営はかなりうまくいったものと考えている。いずれにせよ、各年度において上記のように新入生から高評価を得ている点については、ひとえにサポーターになった上級生の高い資質と、彼女たちが真面目にサポーターの仕事をやってくれたという事実の反映に他ならない。現在の仕組みを次年度以降も維持していくことの有力な根拠たりうるであろう。何よりもサポーターを務めてくれたみなさんへの感謝の念をここに表明しておきたい。

しかしながら、良いことばかりではない。アンケートの各コメントを詳細に見ていくと(アンケート問(5))、多くの問題点が浮かび上がる。まず、全くサポートを受けられなかったという学生がかなり存在する(アンケート問(2))。2011年度10名、2012年度12名、2013年度8名、となっている。実際のところ、新入生の側がサポートを必要とせず、サポーターと連絡を取らないケースもあると考えられるし、実際にサポーターからアクセスがあったもののこれに感じなかったということも十分にあり得る。しかしながら、おそらくさほど積極的に活動しなかったサポーターが若干名いたことが推測される。また、アンケート問(5)の記述を見れば、自分のグループだけ全く活動がなかったとか、サポートの中身はサポーターの人柄によるとかいった辛辣な感想が多数見受けられる。サポーターの違いでこうも差がついてしまい、それに新入生が大きな不満を抱いているという現状については、大いに改善すべき課題であろう。しかしながら、これは実際に対応するとするとこれは非常に難しいといわざるを得ない。とはいえ、少なくともサポート期間中に連絡がない、全く活動がないといったクレームを即時にくみ上げることが出来るような、なんらかの仕組みが必要であろう。それ以外にも、サポーターが熱心でないこと(「忙しさ」を理由にサポートを避けているなど)、サポーターが十分にサポートの仕事をしていないという不満

も散見される。

このことは、ピア・サポートの重大な構造的欠陥を露呈している。本来この制度は、やる気のある学生がサポーターになることを前提にして成り立っており、こうしたヴォランティアな気質が必要不可欠であった。ところが実際には、実際にサポーターを募集することの困難と制度を整えるという名目で、自発的な立候補ではなく各コースごとに何人、と割り当てられた人数を「選出」する方法（イニシアティブは学生ではなく教員にある）に変質していったこと、したがってサポーターを引き受けた学生も「自発的」にこのプログラムにコミットしようという意識がややもすれば希薄なこと、またアドバイザー（教員）も最初は有志的、自発的に引き受けていたものが、機械的にその年の学年担当教員が担当するなど、（全学的な規模で）制度化され整備されればされるほど、本来の趣旨、精神的根幹部分が劣化しつつあることは揺るぎない事実である。

結果として、ごく少数の教員をのぞけば、自分がアドバイザーであるのかどうか、何人のサポーターを抱えているのか、などについてほとんど自覚のない場合も多いと考えられる。現今急速に研究教育面での多忙さ、諸条件の悪化がさらに進行し、教員の誰もが時間的・精神的余裕を失いつつある現状において、こうした制度自体の形骸化、空洞化をいかに防ぎ、血の通ったプログラムとして拡充（せめて維持）していくかが喫緊の、そしてもっとも困難な課題である。

この3年間については、前述のごとく少なくともサポーターには必ず事前の研修会に出席することをよりいっそう義務づけ、そのために研修会を複数回設定して出席しやすくする工夫を毎年行っている。2011年度は2回、2012、2013年度は3回の研修会を実施した（各回は同一内容）。またいずれの研修会にも出られないサポーターに対しては、個別の日程で別途研修の機会をもった。その結果、この3年間については少なくとも事前の研修を受けずにいきなり新入生と顔合わせを行うサポーターはいなかったはずである。しかし、研修を受けたからといって、結局のところ新入生のピア・サポートにどこまで積極的に関わり、自発的に面倒を見てくれるかは、サポーター個々人の意識や資質に依るのであり、制度的にはこれ以上の改善策はなかなか見いだせないというのが現状である。むろんかなりのサポーターが、自分が1年生の時に受けたピア・サポートについて肯定的に評価し、今度は自分たちがサポーターとして新入生の役に立とうと考えてくれているのは確かであるし、実際の活動に尽力してくれたことには深甚なる感謝の意を表したい。しかし、やはりたまたまこの仕事を「押しつけられた」、自分は1年生の時にたいして「面倒を見てもらった記憶がない」、といった消極的なスタンスに立っているサポーターが（相当数）いることも事実である。

そもそもサポーター選出については、その学生の適性よりは各コース教員の個人的な人脈（すなわち頼みやすさ）で、「動員」されているくらいがあり、これではサポーターの質を保つことはとうてい困難である。また、サポーター自体の資質という難しい問題がある。



正直に言って、立候補してくれる学生の誰もがサポーターに適任とはいえないのであり、一定レベルの責任感、几帳面さ、面倒見の良さ、バランス感覚等が必要なのであるが、実際にはこれらの資質を検証した上でサポーターを選任しているとは言い難いものがある。また当然、じっくりと時間をかけたサポーター養成なり研修なりの仕組みが必要なのではあるが、現実には直前の研修会を実施するくらいしか対応策が取れない（これだけで精一杯、というのが正直なところである）。しかもサポーターは通常3年生で、二回以上引き受けてくれる学生は稀少である（ちなみに問(7)のサポーターを来年で降引き受けるか、という問いに対してはかなり低い数値が出ている。サービスの給付は受けても、自らが行うという意識が若い世代にますます希薄となっているのであろうか）。大学の教育制度が急速に変化する情勢下にあつて（この数年間だけでも複数プログラム選択履修制度や四学期制が導入された。また教職課程などもしばしば制度細部の変更がある）、4年生や大学院生では新入生の受ける教育システムとあまりに異なっていて（あるいは1年生の時代のことを忘れていて）自分の経験が役に立たない場合が多く、さりとて2年生では彼女たち自身が主プログラムを選択しようやくコース・環に所属して専門教育に進んだ段階であり、新入生からの専門コースの質問や相談には十分に応じられない。必然的に、専門教育・所属コースにもある程度なじみ、また新入生とそれほど年齢も離れていない3年生が適任ということになる。実際に、複数プログラム選択履修制度の導入に際して、「上級生に聞いてもわからなかった」という不満が、非常に大きかったことがアンケート内容から容易に窺える。これはサポーターの責任ではないことは当然ながら、新入生にとっては「役に立たない」と映じてしまうのは無理からぬところだろう。

他方、サポートを受ける新入生の側を見ると、頻繁にサポーターに相談する学生も見られるが、少々度を越した頻度で質問をするケースもあり得る。メールを使ったやりとりについては、言葉遣いを初めとしてきちんとしたルールが本来必要（ボタンの掛け違いで非常に大きなめ事になりかねない）なのだが、こうした教育機会は持てないままである。新入生にとってピア・サポートは便利使いのできる仕組みかもしれないが、サポーター自身がヴォランティアであることを考えると、過度の問い合わせ（しかも深夜、早朝の非常識なコンタクト）をどう防止するかも今後重要な検討課題になっていくかもしれない。新入生、サポーターともに、「大人の」関係をどうやって構築させうるかが今後ますます重要になってくるであろう。

また、新入生側の不満として非常に多く見られるのは、進学を希望するコースのサポーターに担当してもらえず、知りたい情報が得られなかったというものである。この点は制度発足当初からずっと最大といっても良い問題となっているのだが、学科卒で入学し2年進学時に進学コースを選択するという文教育学部の現在の履修システム上、本人が希望するコースのサポーターを（希望を聞いた上で）割り付けることは、運営上ほとんど不可能である（新入生の希望を聞いて PS グループ割り付けをする時間は事実上とれない—新入

生の名簿を教務チームから受け取れるのは、入学者が確定し名簿が作成される、研修会直前の3月末)。年度によっては、直属のサポーターとは別に、進学希望先のサポーターの連絡先を新入生に知らせ、進学についてはそちらに相談するといった方策を施してみたが、さほどの効果は上がっていないようである。また、この mismatch 解消の方策として、ピア・サポートの懇親会を大々的に利用する方策をこの3年間で試みた。すなわち、懇親会にできるだけすべてのコースのサポーターに出席してもらい、個々の PS グループを超えて、進学したいコースのサポーターと話ができるように設定したのである(サポーターにはどのコース所属かがわかるように、名札をつけてもらった)。懇親会の利用は個人的にはかなり有効に感じられたが、やはり時間的な制約があって(懇親会のたった2時間程度のあいだに、自分の知りたい情報を、聞きたいサポーターから得ることはおそらく相当に困難であろう)、決して十分とは言えないであろう。なお、2013年度については、推薦入試で入学した学生に対しては、(入試段階で志望先がはっきりしている)当該志望コースのサポーターを張りつけるように組み合わせを行った。したがって少なくとも新入生の2割程度は、入学段階での志望先のサポーターと相談が出来たはずである(とはいえ、張りつけ作業は予想以上に面倒であった)。他にもたとえば希望に応じてサポーターの受け持ち新入生をトレードするといった方策が可能かどうかなど、今後とも新入生の希望に添うようなかたちでの PS グループ編成を実現する方法をさまざまに探っていくべきであろう。

また、文教育学部の場合ピア・サポートの活動が、現在のところ4月中に限られている点も今後の課題である。現在の人的資源(というか、実質的にコーディネーター一人で研修、データ管理、サポーターとの連絡、懇親会の設定などすべての作業を担っている)ではこれでどうにも手一杯ではあるが、せつかくの新しい人的ネットワークが毎年5月になると霧消してしまうのはいかにも惜しい。5月以降、こうしたネットワークを生かして新入生およびサポーターに益する企画、取り組みを設定できれば理想的である。以前にはピア・サポート協賛というかたちで、比較歴史学コース主催で、就職が内定した4年生数名に就職のノウハウを語ってもらうという就職ガイダンスを実施したこともある。アンケート(問(6))からもわかるように、こうした就職や進学に関する企画に対しては、1年生側に強い希望があるので、類似の催しを積極的に設定していく努力も必要であろう。しかしながら、こうした活動にまで投入する予算も人材もないというのが現状である。

また、財政的な側面については、元々ピア・サポートには自由になる財源、人的資源が全くなかったため、4月のピア・サポート懇親会の経費については文教育学部の教授会で懇親会費のキャンパスを募り、歴代学部長はじめ教授会構成員の善意でもって飲み物、軽食の懇親会費を捻出してきたが、財政的には大変厳しいものがあつた。この点については、全学のピア・サポート連絡会で実情を説明し支援を依頼したところ、2011年度より毎年後援会から10万円を上限に財政援助が得られることとなった。厳しい財政事情のなか、こうして支援してもらえるようになったことは大変すばらしいことであり、関係各位に感謝した

い。なお、従来通り教授会で教員からのカンパも募り、合計金額内でマルシェの懇親会の軽食・茶菓代を捻出している。もっとも、年々参加者が増え、新入生・サポーターを合わせて 250 人規模になっている現状を考えると、供出できるものはなはだささやかなものではあるが。

最後にもう一つ大きな問題を挙げるとすれば、後継者問題ということになる。2013 年まで 7 年間、ヴォランティアとして筆者がコーディネーターを引き受けてきたが、そろそろ限界である。コーディネーターの仕事は、サポーター選出依頼、サポート開始までのサポーターと新入生の割り振り、サポーター・新入生のデータ整理（メールアドレスの集約等）、サポーターへの各種連絡、研修会の複数回実施、サポーター（場合によっては新入生）からの質問への応対、懇親会の予約・飲食物発注・会場設営・司会（+資金調達、予算管理）、4 月中のサポーターや新入生からの問い合わせに対する個別の回答、さらには 7 月のアンケート用紙配布、回収およびその集計などにおよび、そのすべてを実質的に一人でこなしている。3 月末から 4 月にかけて筆者からサポーターや新入生、教員に出したピア・サポート関連のメール発信総数は、おそらく 1000 通を軽く超える。実際のところ、入学関連の諸行事や通常の授業準備に加えて 4 月中はピア・サポートに忙殺され、もはやどうにもならない状態である。たとえば TA などの人的支援が強く望まれるところである。また、一種職人芸的に制度を構築しているために、「余人をもって代え難い」というよろしくない状況が生じている。また、制度発足より 11 年以上が過ぎ、当初関わってくれた教員もずいぶん年を重ねてしまった（今でも数人の方々が毎年手厚く支援してくれているが）一方、新たに文教育学部メンバーとなられた若手の教員を巻き込むことにはほとんど成功していない。上記のような苦勞の多い仕組みを動かしていくには、何よりも「若さ」と「情熱」が不可欠で、そういう意味で早急な世代交代を図る必要がある。

## 2011～2013 年度ピア・サポート・新入生アンケート調査集計

2011～2013 年度について、1 学生を対象に 6 月末～7 月にかけて実施(1 年生必修科目「情報処理演習」の授業中にアンケートを実施・回収)

有効回答数は 2011 年度 179 名(入学者総数 215 名、回収率 83.3%、人文 53、言文 61、人社 41、芸術 24)、2012 年度は 192 名(入学者総数 213 名、回収率 90.1%、人文 47、言文 83、人社 40、芸術 22)、2013 年度は 185 名(入学者総数 219 名、回収率 84.5%、人文 50、言文 71、人社 37、芸術 27)

なお、2011 年度は事務連絡のミスから、また 2013 年度は担当教員のアンケート実施忘れにより、一クラス(いずれも言語文化学科)分のデータが欠落した。その後できる限り追跡調査を行ったが、完全には回収できなかった。この点に留意する必要がある。

### (1) サポーターから受けたピア・サポートについて

【メール】	2011 年度	2012 年度	2013 年度
(1) 0 回	22 名	35 名	51 名
(2) 1～2 回	74 名	73 名	78 名
(3) 3～4 回	61 名	57 名	48 名
(4) 5 回以上	21 名	26 名	7 名
(無回答)	1 名	1 名	1 名

【直接面談】	2011 年度	2012 年度	2013 年度
(1) 0 回	29 名	43 名	55 名
(2) 1～2 回	111 名	116 名	114 名
(3) 3～4 回	33 名	26 名	14 名
(4) 5 回以上	5 名	1 名	1 名
(無回答)	1 名	6 名	1 名

【懇親会参加】	2011 年度	2012 年度	2013 年度
参加者	154 名	155 名	156 名
(当日の受付)	160 名以上	180 名以上	190 名以上)

### 【その他の活動】

#### 2011 年度

人文：パソコンをすすめてもらった  
 人文：興味のあるコースの先生の部屋に連れ

て行ってもらった  
 人文：先生とアポイントメントを取る際のメ

ールの内容

人文：昼休みに時間割を見ていただいた  
人文：週1回くらいでお食事に誘って下さり、  
学科の先生の研究室などで、グループで一  
緒に食事しました。他のサポートグループ  
と一緒にあったこともありました。  
人文：教授の部屋で昼ご飯  
人文：昼休みにご飯を食べながら時間割など  
について相談  
人文：教授の部屋で昼食会を開いていただき  
ました  
人文：昼食を一緒に食べながら、履修の相談  
にのってもらいました  
人文：サポーターの人とお昼を一緒に食べな  
がら時間割の相談をした  
人文：安成先生の研究室でお昼  
言文：時間割を決める期限の前に先輩に誘わ  
れて、お昼をみんなで食べた  
言文：時間割の作成にあたっての相談  
言文：お昼を食べながら時間割相談  
言文：時間割決め  
言文：お昼を一緒に食べた  
言文：授業履修について話を聞きました  
言文：時間割が適切かを見てもらった  
言文：一緒にお昼を食べながら、自分の時間  
割を見てもらって相談し、アルバイト等の  
ことについても  
言文：履修相談、進路相談  
言文：お昼にマルシェに集まって、授業のと  
りかたとかを相談した  
言文：集まって昼食を食べた  
言文：履修登録の相談  
言文：一緒にお昼を食べました  
言文：履修登録の前に何度も相談にのってい  
ただきました。また、バイト先のことで相

## 2012年度

人文：サポーターの方に誘われて、安成先生  
の研究室で質問や話をきくことが出来ま  
した。  
人文：お昼を一緒に食べた  
人文：先生の部屋で昼食会  
人文：時間割をたてる時手伝っていただいた。  
人文：昼食会  
人文：時間割の組み方の詳しい説明  
人文：昼食会  
言文：時間割のつくり方を教えてもらった。

談に乗ってもらったり、恋愛の話なんかも  
しました。

言文：昼休みに昼食を一緒にとった  
言文：教職の履修システムがよくわからず、  
メールで相談して、会って相談してもいい  
よと言って下さったのですが、メールのや  
りとりで解決しました。  
言文：昼食を一緒にとり、相談に応じてもら  
った  
言文：お昼休みに相談時間を設けていただい  
た。メールで質問。  
言文：一緒にお昼を食べた。分からない施設  
の場所を聞くことが出来た。  
人社：一緒に昼ご飯を食べました  
人社：ピアサポーターの方数名と、その人た  
ちをサポーターにしている一年生たちで  
食事と相談  
人社：時間割についての相談  
人社：時間割相談  
人社：時間割について  
人社：時間割について、不安なことわからな  
いことを聞いた  
芸表：ピア・サポートプログラムとしてでな  
く、普段話をよくします。  
芸表：ケーキ食べたり、履修や資格について  
相談した  
芸表：学科の先輩たちの活動についてなど  
芸表：時間割の懇談、ケーキを食べた  
芸表：履修について、授業の様子について  
芸表：学科の人数が少ないので、ピア・サポ  
ーターの先輩だけではなく、様々な先輩がい  
ろいろなことを教えてくれました  
芸表：懇親会で履修について相談しました  
芸表：普段も普通に相談にのってもらえてし  
ゃべりやすい

言文：履修方法や時間割の組み方を聞いた  
言文：校内案内、バイトなどのアドバイス  
言文：時間割の組み方を見てもらった  
言文：時間割作成相談  
言文：授業の組み方、サークルなどの紹介、  
イベントのお知らせ  
言文：自分が進みたいプログラムの先輩を紹  
介してもらった  
言文：時間割相談、サークルやバイトの相談  
言文：昼にごはんを食べながら相談をした。

時間割、サークル etc.  
言文：お昼を食べながら、相談にのっていただきました。  
言文：今不安なことや学科・教職についてお話をききました。  
言文：授業のとり方について教えてもらった。  
言文：3~4 グループくらいで集まって授業のとり方などについて質問したり先輩たちの経験の話を聞いたりした。  
言文：時間割の作成などとても丁寧に教えていただけた  
言文：昼食を一緒に食べて、時間割作成や科目履修などのアドバイスを受けた  
言文：一緒に昼食をとって、履修についての相談にのっていただいた  
言文：時間割作成

## 2013 年度

人文：マルシェでの懇親会で履修について話を聞いてよかった  
人文：自分が作成した時間割についてアドバイスをもらった  
人文：昼食を一緒に食べ、授業についての話などをしてもらった  
人文：安成先生に会いに行った  
人文：サポーターの先輩や先生方と一緒に昼食をとった  
人文：昼を享受の部屋で一緒に食べさせていただいた  
人文：安成先生の研究室で昼食会  
人文：こちらから相談があれば其つど(今回はなかった)  
人文：お昼にあって相談に乗っていただいた  
人文：他のピア・サポートの紹介(教職の有無や行きたいコースの違いから)  
言文：履修登録における教科の選び方や優先順位  
言文：時間割について相談、2 年次のコース選択について相談  
言文：前期の時間割相談  
言文：メールで授業内容について教えていただきました

言文：一緒にお昼を食べた  
言文：一緒にお昼を食べながらお話しさせていただきました。  
言文：時間割作成の相談会  
言文：履修登録が終わる前に一緒に昼食をとった  
人社：時間割の相談に、すごく具体的にのっていただいた。  
人社：時間割の組み方について  
人社：時間割を見ていただいた  
人社：時間割について  
芸表：履修の相談  
芸表：相談にのる  
芸表：時間割の作り方など悩み相談  
芸表：時間割の相談

言文：履修の相談  
言文：履修についての説明昼食会を開いていただきました  
言文：履修登録の相談  
言文：履修の相談  
言文：時間割の相談、授業の様子についてお話してもらおう  
言文：メールのやりとりは「よろしく願います」の挨拶のみ  
言文：パソコンの使い方をお聞きしました  
人社：履修登録を手伝っていただいた。  
人社：サークルを紹介してもらいました。  
人社：履修についての相談に乗っていただいた。  
芸表：ピア・サポートと言うよりは普段から1年生に声をかけて気にしてくれた。  
芸表：時間割決め  
芸表：履修登録についてのアドバイス、食事会  
芸表：時間割を作成した。  
芸表：時間割の作り方を教えてもらった。  
芸表：時間割の決め方について等についてのアドバイスを先輩からしていただいた。  
芸表：履修についての質問をした。

## (2) ピア・サポートは役に立ったか？

	2011 年度	2012 年度	2013 年度
(a) とても役に立った	62 名	90 名	61 名
(b) 少し役に立った	84 名	63 名	84 名
(c) どちらともいえない	7 名	13 名	10 名
(d) あまり役に立たなかった	13 名	13 名	17 名
(e) 全く役に立たなかった	2 名	1 名	4 名
(f) サポートを全く受けなかった	10 名	12 名	8 名
(無回答)	1 名	0 名	1 名

### (3) 来年以降のピア・サポートについて

	2011 年度	2012 年度	2013 年度
(a) 是非実施すべき	44 名	75 名	47 名
(b) 実施した方がよい	94 名	88 名	94 名
(c) どちらともいえない	36 名	25 名	34 名
(d) 実施しなくてよい	2 名	3 名	8 名
(無回答)	3 名	1 名	2 名

(d) の理由「サポーターによる」「意味なし」(以上 2011 年度)、「いなくても何とかあった」「利用しなかったから」(以上 2012 年度)、「自分でできることだから」「サポートを全く受けなくてもなんとかあったから」「別になくても大丈夫だったから」「メアドを教えたのに、メールが 1 通も来ずに、こっちは相手のメアドを知らないまま、不快だ」「サポーターにメールする気がわかかなかったから」「あまり意味がなかった」(以上 2013 年度)

### (4) ピア・サポートでよかったこと

#### 2011 年度 (128 名回答)

人文：先輩の話を聞いた  
 人文：時間割作成についての相談  
 人文：学科の先輩に話を聞くことが出来たこと  
 人文：進路の希望がかぶっていたところ  
 人文：時間割を組むとき少し手伝ってもらったこと。先生方と話す機会を与えてもらったこと。  
 人文：いろんなお話が聞けた  
 人文：心強くはあった  
 人文：いつでも相談できるという安心感  
 人文：聞いてもいい人がいる安心感があった  
 人文：分からないところが気軽に相談できた  
 人文：先生や、他のサポーターの方と話す機会を作って下さり、いろんな話を聞いて楽

しかった。大学の様子などを知れました。  
 人文：時間割を決める参考になった  
 人文：心強くなれる  
 人文：履修登録がしやすかった  
 人文：お話が聞いて参考になりました  
 人文：先生を交えてのお昼ご飯、楽しかったです  
 人文：志望するコースの先輩に相談してもらえたことで、何をとるべきかが分かったり、具体的に 2 年後の姿を想像することができた  
 人文：教職の履修方法が難しかったので、実際に履修されている方のお話を聞くことができるのはとても参考になりました  
 人文：比歴コースに行きたいという人が多か

ったので、ピアサポーターの方が比歴の先輩を紹介してくれた

人文：ピア・サポートの先輩に何の授業を取ったらよいかという話を細かく教えていただきました

人文：時間割にどのくらいまでコマを入れても大丈夫かの目安がわかった

人文：時間割の組み方

人文：時間割の相談が出来たこと。授業やバイトの様子を聞いたこと。

人文：単位制について理解できた

人文：履修登録のときに相談にのっていただいた。ありがたかった。

人文：授業のことが気軽にきけたこと

人文：外国語の履修や教職について分かりやすく教えてもらいました

人文：何でも聞いてね、といってくれる先輩がいるというだけで心強かったです

人文：時間割の組み方や、資格について質問できたこと

人文：先輩からのメールでなんでも質問していいと言っていたき精神的に落ち着くことができた

人文：大体1年のうちを取っておいた方がいい授業がどれかわかる。先輩に質問しやすい。

人文：時間割を自分で決めるのは正直戸惑いが大きすぎる。あまり涙が出そうでしたが、いつでも相談できる優しい先輩のおかげで安心して大学生活をスタートできました。

人文：先輩が同郷だったのでその話に花が咲いた。安心感はある。

人文：安心させてくださった

言文：時間割を作るときに、教務では聞けないくだらないことも聞いた

言文：分からないことを質問でき、不安を解消できた点

言文：授業の組み方のアドバイス

言文：わからないことばかりだったのでピア・サポートがあって心強かったです

言文：体育や情報などこれからも行動を共にする機会の多い名簿の近い友人ができた

言文：実際の授業のコマ数などが聞いた

言文：学食とかの話聞いたこと

言文：先輩の単位数を参考に出来た

言文：私が日文志望で、ピア・サポートの先輩が日文だったので授業やレポートの話が聞けてよかった

言文：時間割についてや、抗議をうけての感想などを先輩に聞いて、安心した部分が多くありました

言文：時間割作りがスムーズに出来た

言文：時間割の立て方のアドバイスを受けることが出来てよかった。教職科目などの取り方を上級生の方の経験から聞くことができてよかった。また、授業中の雰囲気を知ることができてよかった。

言文：シラバスから見えてこない授業の具体的な内容や雰囲気を先輩から聞くことが出来、時間割作成に役立てることができた

言文：履修の相談をすることができるのは良かった

言文：授業のことだけでなく大学生活全般のことをよく知れた。大学4年間で色々挑戦してみようという気になった。

言文：週の授業数は何コマくらいにしたらよいか参考になったこと

言文：時間割の決め方などを教えてもらえたこと

言文：サポーターの方の縦横のつながりでいろんな話を聞いた

言文：授業の履修や形態について質問すると丁寧に教えてくださった

言文：先輩に時間割をチェックしてもらい少し安心できた

言文：履修のアドバイスをしてもらえたこと

言文：ペアによってはすごく積極的にメールのやり取りをしているところもあったので、時間割の組み方とかたくさんアドバイスがいただけ良かったです。マルシェでの懇親会も楽しかった。

言文：時間割の組み立て方のコツを教わったこと

言文：相談する相手がいるのは心強かった

言文：履修の仕方を詳しく知ることが出来た。履修で見落としていた点を発見できた。

言文：授業の取り方、取るべき授業が全くわからず、困っていたが、ピア・サポートの先輩がわかりやすく教えて下さった

言文：講義の先生がどういう人か直接聞くことが出来、履修の参考になった



言文：どんな授業を優先してとったらよいか  
などがわかった。パソコンを買うかどうか  
の相談もできた。

言文：コースが違う人だと何も聞けない

言文：同回生や先輩の人と話す機会が出来た

言文：交流の幅を縦にも伸ばすいいチャンス  
になった

言文：授業の組み方やとった方がいい授業を  
教えてもらえて最初1人では全くわから  
なかったのが助かりました

言文：資料だけではわからない、授業の様子  
について生の声を聞けた

言文：先輩が優しく聞きやすかった。履修  
のことはさっぱりわ1からなかったので色  
々教えてくれてよかった。

言文：授業のコマ数の目安など、具体的なア  
ドバイスをもらえたのが役に立ちました

言文：懇親会で自分の気になっている進路へ  
進んだ先輩にお話を聞けたこと

言文：少しでも先輩からお茶大について生の  
声が聞けるのがよかった

言文：履修登録の際いろいろ教えてもらった  
こと

言文：先輩方とこうりゅをもてたこと

言文：先輩にどの授業が良いかなど、生の声  
が聞けたのがよかった

言文：1人じゃないって思えたこと

言文：履修登録を自信を持ってできました。  
先輩と仲良くなれたので、お茶大の先輩方  
との親近感が湧いた。

言文：履修登録など慣れない環境のなかで戸  
惑っている私たちにやさしく教えて下さ  
ったので、とても心強かったです。

言文：大学の履修システムにとっても戸惑った  
ので、どんなに小さいことでも聞ける人が  
いたのは安心しました。

言文：時間割作成におけるアドバイスや、キ  
ャンパスライフについてアドバイスをも  
らえたこと

言文：一番役に立ったのは、時間割の組み方  
について、どのくらい埋めるのがよいか  
や、優先順位などを教えていただいたこ  
と。履修登録の方法など。私自身は希望進  
学先のサポーターの方と同じで良かった  
が、違う人もいたので、その人の希望先  
のサポーターのグループと合同にやってい

ただいた点。

言文：一緒にお昼を食べた際、二年のコース  
分けや、テストについてお聞きするこ  
が出来た。分からない大学施設の場所を教  
えていただいた。

人社：大学の授業の組み方がさっぱり分  
からなかったが、先輩に聞いて初めて理  
解した

人社：時間割の組み方を教えてもらったこ  
と

人社：履修登録の相談をできたことが1番  
助かりました

人社：時間割のこの相談ができた

人社：時間割の作り方が分かった。どの  
教科をとればいいかが分かった。

人社：時間割作成等、分からないことが多  
かったので、相談できてよかった。

人社：時間割を相談できたこと。コマ数  
や教職などわからないことが解決され  
ました。おすすめの授業を覚えてもら  
えた。

人社：時間割の決め方を教えていただき、  
とても参考になったし有り難かったです

人社：カリキュラム（時間割）を作るとき  
に、相談にのってくれました

人社：気軽に時間割の相談ができること

人社：わからないことがあったときに気  
兼ねなく質問できる人がいるというの  
は安心できた。メールなのであまり緊  
張もせず質問できた。

人社：時間割の立て方

人社：一週間のコマ数をとりすぎてしま  
いそうになっていたのですが、ピア・サ  
ポートのサポーターの方がアドバイス  
してくださり、出来るくらいのコマ数  
にすることができました

人社：教職（授業）の取れる授業を示し  
てくれて、それを参考に時間割を組  
めた

人社：何も分らなかったけど、授業のこ  
とについて教えてもらえて理解でき  
た。

人社：授業選択の相談に乗ってくれた

人社：3年生になったらこんなに授業数  
が少なくて、このコースは必修がた  
くさんあって大変とかパンフレット  
にのっていないことが教えてもら  
えた

人社：時間割を失敗せずにすんだこと。  
自分の希望コースに進んでいる先  
輩の話聞いたこと。

人社：先輩方が1年生のときにどうして

か聞けて良かった。学科のコースのことについても詳しく教えてもらえた。

人社：時間割で何を優先してとればいいのか分らなかったが、アドバイスを良かった

人社：時間割の立て方の相談にのっていただき、とても役に立ちました

人社：授業の組み方についてや教職関係について相談にのってもらえたこと

人社：生の声が聞けた

人社：時間割の組み方が全くわからなかったもので、先輩にアドバイスがもらえてようやく組めるようになり、助かりました

人社：始めのピア・サポート説明会に参加しそこねたので、そのシステム自体がよく分からず利用できなかった

人社：先輩に話を聞けるので、生の情報がためになった

人社：教職についていろいろな話が聞けた。自分が希望している進路の先輩を紹介してくれた。

人社：時間割についてアドバイスをいただいた

人社：時間割や教職をとるかの相談にのってもらえたこと

人社：時間割のたてかたが分かった

人社：履修の仕方がわかった

人社：時間割の組み立て方など、分からない

## 2012年度（136名回答）

人文：安成先生の部屋でごはんを食べたときに率直な話をきけてよかった。

人文：単位という概念がよく分からない中で、履修登録をチェックしてもらったり、素朴な疑問に答えてもらえたことがとても良かった。また、迷った時にメールなどですぐ相談できるのも良かった。

人文：履修制度など、初めての事ばかりで全然分からなかったけれど、ピアサポーターさんのおかげで不安を解消することが出来ました。

人文：時間割の相談ができたことです。右も左もわからなかったのです。

人文：安心した

人文：入学したてで何もかも分からない時に、上級生が本では分からないことを教えてくれたこと。

人文：とにかく学校生活について分からない

ことが多かったので、いろいろすぐに質問できてよかった

人社：全体の説明会では分かりづらかったところが理解できた。生徒の目線から話が聞けた。いろいろな経験が聞けた。

人社：履修の相談など気軽にのってくれたから良かった

芸表：履修登録

芸表：入学時不安が多かったけど、先輩がしてくれたことでとても安心できました

芸表：履修のことを色々相談できた

芸表：先輩の履修の方法や考えや、いろいろな例が聞けたので良かったです

芸表：不安なことへの質問ができたこと

芸表：学校生活について話を聞けたこと

芸表：ケーキを食べれたこと

芸表：分からないことを聞けた

芸表：LAを1年生のうちに取った方がよいというようなアドバイスをもらえてよかった

芸表：先輩と知り合えた

芸表：最初にピア・サポートがあるということで安心できたことが良かったです

芸表：履修登録について相談にのってもらえた

芸表：先輩に学習内容を聞けたこと

ことだらけだったので、本当に小さなことや基本的なことから聞くことができました。先生や先輩・同級生と交流する機会があつて良かったです。

人文：マルシェでの懇親会のとき、授業のとり方や単位について教えてもらったのはとても役に立った。

人文：相談できる先輩がいるのは心強かったと思う。

人文：一年のうちにどの授業をとるべきなのかわかった。

人文：不安なことを聞いて解決へ導いてくれる人がいるという安心感。

人文：それぞれの授業についての評判がきけたので、実際に授業を選ぶときとても参考になった。

人文：外国語の授業へのアドバイスや履修申請期限のお知らせなどが役に立ちました。

人文：先輩の学校生活の話がきけてよかった。  
昼休みとかに集めてくれて、学校の友人ができた。

人文：中国語のクラスについて教えてもらえた

人文：履修科目のアドバイスがとても役に立った

人文：懇親会での相談

人文：授業数が足りないのでは、と不安になったことがあったが、同じコースに進んでいた先輩を見つけられたことでその不安を解消できた。

人文：どの授業をとったらよいかなどが聞けてとても参考になった

人文：おすすめの授業がどれかきくことができた

人文：時間割の組み方が、本当によくわからなかったので親切に教えてもらって、よかったと思う。

人文：時間割を自分で作らなければならないということが右も左もわからない状態だったところへ、先輩がいてくれていろいろ聞けてとても安心した。

人文：中国語の授業の選択

人文：履修科目をスムーズに決められたこと

人文：時間割をチェックしていただいたこと

人文：履修登録の時に先輩から話を聞いたりアドバイスをいただいたりすることができたのは役立った。

人文：自分1人だったら絶対に時間割なんて組めなかったけど先輩のおかげでくめた

人文：どんな授業をとったら面白いなどの時間割に関するアドバイス

人文：授業を組みたてるのに先輩方のサポートがとても役に立ちました

人文：大学生活について分からないことがたくさんある時期に、僧団が気軽にできる上級生がいるということは、精神的に安心でした。

人文：時間割を効率よく組めた。

人文：時間割りの具体的な組み方を教えてもらえた。

人文：時間割を上手く組むことができた

人文：授業の取り方全くがわからなかったの  
で、初めから教えてもらえたこと。作成した時間割をチェックしてもらえたこと。

人文：時間割の組み方がまったく分かっていなかったの  
で、参考になってよかったです。

人文：先輩の連絡先を教えてもらったことで、いつでも質問ができるという安心感がありました。

人文：単位のしくみがよくわからなかったの  
で教えていただけてよかった。

人文：先輩方の体験に基づく意見を聞くことができたのがとても良かった。ガイダンスで代替履修の方法や単位については理解できていたが、時間割を組む際に1番役に立ったのは、実際に学生の立場から体験したことで生まれる「生の声」だったと思う。

人文：時間割りの組み方のサポートをしていただけたのがとても役立った。

人文：先輩同士が連絡をとりあって、自分の進みたいコースの先輩とも話ができるようにしてくれたところ。

人文：メールで相談できるところ

言文：時間割だけでなく、学校生活全般についていろいろ質問できたこと

言文：自分のわからないことをすぐに質問できたのがよかった。

言文：時間割を作る上で安心感があつた。

言文：履修のアドバイスは、ほんとうにありがたかったです。

言文：相談相手がいると思うと、安心できた。

言文：質問や不安なことをきいてもらえたこと、先輩の時間割表を見せてもらえたこと。

言文：入学当初の諸手続きについての質問などができた。

言文：何かあれば相談できる人がいるというのは、入学時の何もわからない時期にはとても心強かったです。4/11のマルシェでの懇親会では時間割などいろいろ教えてもらい、同じコースを希望している人たちとも知り合いになれて良い機会でした。

言文：時間割の相談をしたり、校内の案内をしてもらえたこと。

言文：履修登録で困った際、わざわざ文科省のHPまで参考にして対処してくれたこと

言文：時間割の組み方を実際に見てもらえたこと。何もわからなくて不安だったので助

- かりました。あと、メールでサークル宣伝してもらったこと。ボランティアなど。興味のある情報がもらえてよかった。
- 言文：履修登録など不安な点がたくさんあったが、相談にのってもらい解消できたこと。
- 言文：よくわからないことを質問できて良かった。早くから学校のことを知ることができたと思う。
- 言文：何か困ったことがあったときに聞ける上級生がいるという安心感があったので、必要以上に緊張した学校生活を送らなくてすんだこと。
- 言文：学生センターに行くのが気が引けていたので、メールで先輩に気軽に質問できたのが良かった。
- 言文：授業の取り方などについて色々アドバイスを頂けたので良かったです。
- 言文：時間割のバランスや抜けていた科目などを見てもらえて、とても助かりました。履修ガイドで分からなかった所も質問でき、丁寧に教えていただきました。
- 言文：先輩からの授業の内容を詳しく教えてもらうことができたこと。
- 言文：直接メールで質問ができた
- 言文：授業のとり方が分かった
- 言文：先輩と仲良くなれた。いろいろ意見を聞いた
- 言文：何もしていないから分からない。
- 言文：時間割をたてる際の優先順位を教えてもらった
- 言文：時間割の組み方が分かりにくかったので、ピアサポーターは年が近いので聞きやすかった。
- 言文：何も分からずに不安な中、先輩がとても丁寧に話をきいて下さって、精神的にもすごく安心感がありました！特に時間割は私一人では決められていなかっただろうと思います。
- 言文：サークルの評判や、活動している人を紹介してくれたこと。相談する相手がいる、というだけで心強かった。たずねるべき教授の名前や部屋を教えてくれたこと。
- 言文：授業の情報が聞けた。右も左もわからない状態だったので、質問できる人いるのは心強かった。
- 言文：緊張感が和らいだ！お茶大の雰囲気少しわかった。
- 言文：何もわからないことだらけだったのですごく助かった。
- 言文：親身になって助けてもらったこと
- 言文：マルシェでの懇親会では、自分の進みたい方向の話を詳しくきけとても参考になりました。
- 言文：先輩がメールをして下さり、嬉しかった
- 言文：履修の仕方
- 言文：授業の組み方など、1 から教えてくれて、不安が消えた。
- 言文：頼るかどうかは別として、先輩とのつながりがあるというだけで心強かったこと。
- 言文：取る科目について聞けたこと。どれくらいの量をとればいいのか聞けたこと。
- 言文：時間割を組む時や外国語を選択する時に、何を優先すればいいか、どの授業をとるのがいいかを聞けた。
- 言文：サークル等の先輩ができる前に大学生活を教えてくれる先輩がいたのは有難かった。
- 言文：時間割作成のアドバイスをもらえた。大学の事を教えてもらえた。
- 言文：どのような授業なのか、学生でないと分かりにくいことについて教えていただいたこと
- 言文：知り合いもいない中、気軽に相談できるので、時間割を立てる際いろいろとアドバイスをもらえたので、安心して時間割を組めた。
- 言文：履修登録の相談に乗っていただけなのがとても助かりました！
- 言文：先輩と知り合えたこと。
- 言文：時間割をたてる際に全く何もわからなかったので相談できてよかった。
- 言文：分からない部分を気がねなく聞けたことがよかった。
- 言文：相談しようと思った時に自分から先輩を探さなくて良かった。
- 言文：時間割の相談にのって下さったこと
- 言文：先輩と仲良くなれた
- 言文：履修関係のことで、ささいなことでも質問

言文：履修登録のこと色々アドバイスをして  
くれてよかったです

言文：授業の時間割の組み方についてなど分  
かりやすく教えてくれた。

言文：安心感があったこと。

言文：時間割に関する質問に丁寧に答えてく  
れた。

言文：時間割などについて相談できたこと

言文：履修の仕方（具体例も見れた）

言文：先生の特徴など、先輩の声が聞け、ア  
ドバイスして頂けてよかったです。懇親会  
では多くの先輩と話せてとても参考になり  
ました。

言文：学園祭など、全くよく分からないこと  
でも幅広く教えてくれて良かったと思ひ  
ます。

言文：4月は右も左も分からなかったので、  
存在自体ありがたかった。特に時間割作成

言文：安心して履修登録できた

言文：不安が解消されました。

言文：先輩ならではの情報をおききでき良か  
ったです。

人社：安心感

人社：わからないことだらけなので、このよ  
うに親切な先輩方は本当になくはなら  
なかった。

人社：時間割決めで一緒にしてくれて助かっ  
た。

人社：時間割のたて方がわかった。

人社：マルシェでやった方はゆっくりしゃべ  
れたので、分からないところをいろいろ質  
問できた。

人社：先輩の生の声がきけること。

人社：相談にのってくれる人がいるのは、と  
てもいい。先輩たちはみなさんすごくよく  
相談にのってくれてうれしかったです。

人社：学期ごとにどのくらい授業をとったら  
いいか教えてもらったのが参考になりま  
した。

人社：時間割を見ていただいて、アドバイス

### 2013年度（118名回答）

人文：大学生活の雰囲気をもっとつかむ  
ことができた

人文：先輩意の話を聞けて、履修登録の際に  
役立った

人文：履修について詳しく聞けた

をもらえたこと。

人社：話を聞けたこと

人社：今後も学生生活が分かる

人社：時間割の組み方を教えてもらったこと

人社：時間割相談

人社：履修登録についてなど、分からないこ  
とを質問できた。

人社：先輩の話を聞けたこと

人社：時間割作成においてお話がきけたこと。

人社：マルシェの懇親会で時間割作成に関し  
て質問できたこと

人社：時間割に関して安心感が得られた

人社：各授業の雰囲気を知ることができた。

人社：履修の方法などの相談にのってもらっ  
た。

芸表：履修相談ができた。先輩との距離を縮  
めることができた。

芸表：履修登録

芸表：時間割の相談ができた

芸表：履修のことを相談できたのがすごく助  
かった。心強かった。

芸表：時間割の組み方。軽食があったもの

芸表：授業の選び方を教えてもらえてよかつ  
た

芸表：時間割を決める時によく分からなくて  
困った事が何度かあったのですが、わざわざ  
教務に行くほどではない…という時に  
気軽に聞く事ができてとても助かりまし  
た。

芸表：相談することで不安が取り除かれた。

芸表：大学生活のイメージが実際に先輩と会  
うことで何んとなくつかめた。

芸表：時間割の組み方など

芸表：3、4年生とはやや距離が感じられるが、  
ピアサポーターがいることで2年生はすご  
く近くに感じられた

芸表：授業のとり方がわかった

芸表：授業の様子や内容がわかった。

芸表：時間割の組み立てが全く分からなかつ  
たので、役に立ちました。

人文：授業について知ることができた

人文：先輩にいつでも連絡が取れるという安  
心感がある

人文：行きたいコースに進んだ先輩を紹介し  
てくださり、時間割を考えるのにとっても役

立った  
人文：どんな風に時間割を組むのか聞いた  
人文：大学についての不安を和らげることができた  
人文：4月は始めて時間割を自分で作成するということがとても不安だったので、ピア・サポートさんの存在自体がとても安心するものでよかった  
人文：何かあったとき相談できる人がいるのは心強かった  
人文：時間割の組み方などを教えていただいたこと  
人文：親身になって相談に応じてくださった、安成先生に会いに行った  
人文：ピア・サポートでの集まりを通じて、グループの同学年との交流が深まった  
人文：理由のない不安が和らいだ、授業内容を教えてもらえたのが助かった  
人文：先輩方とかかわりが持てた  
人文：時間割のアドバイスをもらえたのがとてもよかった、サポーターの先輩のおかげで先生方とお話することができた  
人文：懇親会で進みたいコースの先輩にお話を伺えた  
人文：書類の提出など同学年の人に聞いてもわからないことを教えてもらえた  
人文：時間割をスムーズに決められた  
人文：自分の時間割の確認  
人文：ピア・サポートの先輩が私の興味のあるサークルの先輩を紹介してくれた  
人文：履修相談  
人文：生の声を聞いた  
人文：先輩の生の声を聞いた  
人文：直接あって相談したいと申し出たら相談するときに設けてくれた  
人文：履修の相談に乗っていただいた、一年生向けの授業などを詳しく教えていただいた  
人文：時間割作成、お茶大内部の雰囲気を知ることができた  
人文：自分で大丈夫なのかを確認すると先輩に見てもらうのでは安心感がだいぶ違う  
人文：履修の相談に乗ってもらえた  
人文：こま数の多い少ないがわかった  
人文：授業のとり方のセオリーを知ることが

できてよかった  
人文：懇親会で履修の相談ができたことはよかった  
人文：先輩の生の声を聞いた  
人文：自分の担当ではない先輩がとても優しく教えてくださり、とてもありがたかった  
人文：先輩の生の声で大学についての話を聞いた  
人文：不安に思ったことがすぐ解決したのでモヤモヤせず楽しく安心してスタートできた、本当に親切でありがたかった  
人文：膨大な説明を受け不安だったので先輩という身近な人に頼れてよかった  
人文：先輩とのかかわりがあまりない4月初頭に相談できる相手がいるのは安心感があった  
言文：履修についての説明、時間割チェック  
言文：時間割の組み方やおすすめ授業が聞いたこと  
言文：懇親会での履修相談  
言文：時間割作成  
言文：テストの内容を聞いた  
言文：履修について全てが手探り状態だったのを先輩に聞くことができて良かった  
言文：時間割の相談をメールで詳しくできたのが良かった  
言文：時間割の組み方が1人では全く分からなかったため、相談に乗ってもらって本当に助かった、その他にも教科書は全部買うべきかなど細かい質問にも答えてもらえて良かった  
言文：シラバスの場所が分かったところ  
言文：履修登録の相談  
言文：疑問に思うことがあっても入学してではなかなか相談できる上級生っていないと思うので、そういう意味で良いシステムだと思う  
言文：自分のグループを担当してくださったのは英文の先輩でしたが他のグループと合同の昼食会の時に仏文の先輩にもお話を聞いたのが良かった  
言文：相談できる人がいることで不安が和らいだ  
言文：役に立つと思う  
言文：履修を決める際の参考になった、大学生活について色々教えてもらった

言文：1週間に何コマぐらい取れば良いのか聞けたことが良かった  
言文：初めて時間割を組むのが不安だったので相談できて良かった  
言文：時間割のアドバイスをもらえたこと  
言文：大学での生活で安心感が生まれた  
言文：時間割の適切な組み方が知れたので安心した  
言文：時間割について教えてもらえたこと  
言文：単位制は初めてだったので先輩の話は参考になった  
言文：時間割を組むのに役立った  
言文：時間割の組み方について相談できたこと  
言文：履修方法を教えていただけて助かった  
言文：4/9のマルシェの懇親会で時間割を決めることができた、ピア・サポートがなかったら訳が分からないままだったと思う  
言文：講義の内容を事前に知ることができた  
言文：時間割作成時に分からないことが聞けたのは良かった  
言文：懇親会  
言文：学科のことなどを聞いた  
言文：履修の質問に答えていただいた  
言文：マルシェでの懇親会は良かった、ただもっと同じ学科・コースの先輩と話しやすい席にしてほしい  
言文：4/9の懇親会で自分の希望するコースの先輩のお話をうかがえたこと  
言文：どうしようと思った時に頼れる先輩がいることがとても心強かった、そういう存在がいるというだけで大学生活に安心が生まれる  
言文：履修相談ができた  
言文：履修登録のご相談にたくさんのっていただけました  
言文：懇親会で履修の相談を志望学科の先輩に聞いたことと1年生同士の交流の輪が広がったことが嬉しかった  
言文：安心できることが一番良かった点だと思う  
人社：履修の仕方とても参考になりました。  
人社：授業の組み方がわかった。  
人社：全体での説明会で分からなかったことをきけた。

人社：先輩がついてくれてると思うと精神的におちついた。  
人社：入学して何もわからなかったので時間割組みにとっても役立った。  
人社：時間割を組むのに役立った。  
人社：教職をとるかどうか迷っていたので、相談できてよかったです。  
人社：授業のことなど知れた  
人社：それぞれのコースで教職がとれるかどうか知れた。コア科目から取ればいいことを教えてもらえた。  
人社：履修登録を教えてもらえてよかったです。  
人社：実際にサポートするという前提で話を聞いてくれるので役に立つ。  
人社：不安が軽くなった。  
人社：様々なコースの先輩方が勢ぞろいしていたので、それぞれのコースの話聞くことができた。  
人社：履修に関する不安が軽くなった。  
人社：時間割の組み方で参考になった。  
人社：履修のことや大学生活のことなど不安だったことを聞けたのでよかった。  
人社：どういう感じで履修を組めばいいかわかった。  
人社：時間割の組み方など何もわからなかったのでたくさん助けていただいた。  
芸表：全く大学の時間割や単位の制度がわからなかったが細かく丁寧に一緒に時間割作りをしていただきとてもよかった。  
芸表：科目の選択など。  
芸表：時間割をよりよく作ることができた。  
芸表：時間割を組むときに組みやすかった。安心感。  
芸表：取る授業を決める際にアドバイスをもらえてよかったです。欠席したときの対応も教えてもらいました。  
芸表：時間割作成がとても参考になったしオーダーブルがおいしくてよかった。  
芸表：先輩やさしい  
芸表：時間割の組み方が参考になった。  
芸表：時間割を作る時にアドバイスをくれたこと。  
芸表：時間割作成のアドバイスをしてくれたこと。  
芸表：時間割の作成

芸表：時間割作成時の疑問、不安が解消された。

芸表：入学したばかりで大学の授業や単位についてのことなどまったくわからず不安なことだらけだったけど、先輩に相談してアドバイスをもらえて安心して履修登録できた。

芸表：時間割をどのようにきめたらよいかわかった。

芸表：先輩と話して不安が解決したこと。

芸表：先輩の話をきけたこと。

芸表：先輩の話をきけたこと。生の声を聞いて時間割を決める上での参考になった。

芸表：履修の仕方が最初全くわからなかったが、

マルシェでの懇談会で理解することができた。

芸表：授業の取り方などわからないことを教えてもらえたこと。

芸表：履修についてや授業について経験した先輩に話を聞くことができてよかった。

芸表：履修の疑問が解決できた。

芸表：どのように授業を選ぶべきかなど経験を踏まえて教えてもらえたのがよかった。

芸表：履修の仕方やどんな授業をとったらよいか全くわからなかったので実際に一緒に組んでもらえてすごく助かった。

芸表：履修登録について相談できたのがよかった。

## (5) ピア・サポートの課題、問題点

### 2011年度（63名回答）

人文：何をサポートするのかピアサポーターがちゃんと分かって欲しい

人文：ピアサポーターの人によって待遇が違うらしいので、自分の担当のサポーター以外との接点を増やした方がいいと思う。

人文：今年はしょうがない

人文：いろいろ今年から変わっていて、先輩に聞いても解決しないことがある

人文：いつまで相談していいのかわからなかった

人文：他のグループを比べると、とても恵まれていたなと思います。サポーターの方によって差があるのがやはり問題だと思います。また、新入生にとってはとてもありがたいと思いますが、サポーターの方には負担ですよ。

人文：どのピア・サポートのひとつになるかでサポート具合が違いすぎる点

人文：もうちょっと積極的にサポートして欲しい

人文：直接ピア・サポートの担当の人が志望するコースの先輩ではなく、分からないことが多かった。今年から始まる複数プログラム制についてよくわかってない人が多かった。なんとなく新入生が志望するコースごとに先輩をわりふって紹介して欲しい。

人文：自分たちのプログラムは始めてだった

ので、プログラムに関する相談ができなかった。気後れしてしまって（もしくはどう言えばいいかわからず）メールできなかった。

人文：上級生が1年生向けの授業の時間割制度などについて把握していない

人文：相談しにくい（何もわからなすぎて、何を聞けばいいのかわからない）。自分と志望の合う上級生とピア・サポートのパートナーになれると聞きやすいので、教職の有無や学科などが一覧にしてもらえるといいなと思います。

人文：自分が取りたい資格に必要な単位を実際に取っている先輩にサポーターになって欲しい

人文：もっとお話しする機会があれば

人文：今年から受講の仕方とかが変わったので対応できないことが多かった

人文：履修システムが変わったので多少どうしようもないところも

人文：システムが変わったので時間割の立て方を教われなかった

言文：進路（コース）、教職の有無が自分と同じであればさらに良かったです

言文：まだ決まっていない段階なので仕方ないですが、自分の希望するコースの先輩に話を聞けると良いと思いました

言文：履修関係のアドバイスをもっと受けた



- かったが、1年生と2年生の制度が違うのであまり相談できなかった
- 言文：自分の行きたい専攻の先輩と知り合えなかった
- 言文：学科（コース）が違ったので、あまり望んだことは教えてもらえなかった
- 言文：志望コースが出来れば同じ先輩が良かった。難しいけどね。
- 言文：留学した先輩とも連絡を取りたかった
- 言文：ピア・サポートの方が自分の志望するコースじゃない人は少し不満があるのでは
- 言文：志望するコースと、先輩の在籍しているコースが違ったためあまり相談できずに終わった
- 言文：サポーターとプログラム状況が違ったところ
- 言文：学籍番号順に分けられているので、2年次に進みたいコースの先輩が担当になるとは限らず、あまり深い話が聞けなかった点
- 言文：2年次に進みたい専攻の上級生がサポート役になるように振り分けてほしい。
- 言文：希望する2年からの課程が先輩と違っているとあまり参考にならないところがある
- 言文：進学志望先の上級生ではない場合、あまり参考にならない点
- 言文：交流があまり無い
- 言文：1年間やってほしい
- 言文：以外と話す機会が少なかった
- 言文：あまり懇談の機会がなかったので増やした方がよい。懇親会に担当サポーターが来なかったのが残念だった。
- 言文：もっと大々的にピアサポーターと新入生の集会を開いて欲しい
- 言文：人によって差がある
- 言文：4月以降は疎遠になってしまう点
- 言文：誰のサポートも受けずに時間割りを立てました…。サポーターの方と進む学科のコースが同じなら、もっと相談しやすかったと思います
- 言文：懇親会は先輩の席の配置を工夫した方がよい。周りに先輩がおらず、話しづらかった。
- 言文：懇親会での上級生と一年生の席順をも
- う少し工夫した方がよい（前回上級生が離れて座っていたため、なかなか話せなかった）
- 言文：コースが違うとなかなか詳しい話を聞きにくいので、グループを組むならコースの希望を取って欲しいです。懇親会は相談しやすい雰囲気だったので、「日文」とか「教職」とか場所を決めて（先輩方の位置を固定して）自由に動けるようにするとさらに良いのでは？と思います。
- 言文：今年から時間割のシステムが大幅に変わったので、正直今の先輩に聞いてもあまりわからなかった。その点は来年は多少改善されると思う。
- 言文：交流が少ない
- 言文：今年から制度が変わったので、あまり聞けることがなかった（しょうがないことだが）
- 言文：担当の人によって、ずいぶんあたりはずれがある。私のピア・サポートの人は、懇親会にもあられわれず、最初の顔合わせの時にしかあわなかったが、私の1つ前の学籍番号の人は、何度も相談に乗ってもらい、親しくなっていた。ピア・サポートの人をどうやって考慮するのかかわからないが、きちんと意欲のある人になってほしい。
- 言文：上級生が下級生に対して消極的だと思う。
- 言文：私のサポーターがとても親切な方で、よく一緒にお昼を食べて下さったり、生活面での相談にもものって下さりましたが、友達の手助けはそこまで親切ではなかったり、人によってばらつきがあったようです。有志の方がやって下さっているのは十分承知ですが、もう少し改善が必要だと思いました。
- 言文：私は先輩と同じ英文に進みたかったので良かったのですが、日文に進みたい子には日文の先輩がつくように徹底した方がよいかもしれません。迷っている子には一年生の時迷っていた先輩を当てれば、それぞれが具体的にビジョンを持てると思います。
- 言文：ピア・サポートのプログラム自体はとも良いと思うし、サポーターの先輩も丁

寧にサポートして下さったのでよかったが、終わりがはっきりしていなかったのが気がかりだった。

人社：あまり交流がない

人社：個人的にメールすることにためらいがする

人社：もっとサポートを多く

人社：自分達の授業の取り方の制度と先輩の時の制度が違ってその辺がよくわからなかった

人社：時間割の組み立てが終わったら自然消滅していったこと。サークルの勧誘はしないでほしい。

## 2012年度 (72名回答)

人文：どうしても自分の行きたいコースの人が担当でないとやりにくかった。友人のピアサポの人を頼って授業を組むしかなかった。ピアサポの方が旅行に行ってしまうほぼ話ができなくて困った。

人文：自分の希望コースと合わない先輩が担当になったりすること。

人文：自分から話しかけにくい時があるので、たまにサポーターさんから聞いてくれるともっと嬉しいと思います。

人文：制度がわかりにくいです

人文：一番はじめの顔合わせのときに先輩がいらっしやらなかったのもメールするのも気がひけて、全く利用できませんでした。

人文：志望コースと異なるコースの先輩だとやはり時間割の相談がしづらい。

人文：自分の進みたい学科の人がサポートしてくれるとは限らない点。

人文：個人個人での相談、全体でのイベントをもっと増やす。

人文：時間割を考えるのを、一緒にやってほしかった。わからない

人文：自分のピア・サポートの先輩と話す機会がなかった

人文：無理に担当を決めず、大人数対大人数のイベントを数回開催する方がいいと思います。

人文：担当だったサポーターとは全くやりとりをしなかった。同じコースや資格の先輩でないとなかなか相談できないので、もっとコース・資格別に対応があると良いと思

人社：もっとアピールしていいと思います

人社：もっと向上してほしい。相談しづらい。

自分からは言いにくい。メールしづらい。

人社：メールや実際に会うのは少しためられます

人社：もっと多くの人の時間割の例を実際に見てみたい

芸表：先輩とはシステムが違うため質問できなかった

芸表：4月にしかやりとりがなかった

芸表：もう少し顔を合わせる回数を増やした方が良い

芸表：もっと回数を増やすべき

った。

人文：教職をとる人は教職をとっている人と相談したい

人文：自分の希望するコースの先輩がついてくれるともっとよい。

人文：多くの先輩から話を聞きたい。

人文：入学式の時、集合時間を間違えて顔合わせに出られなかったこともあり、結局いまだに先輩とお会いできていない。実際に会える機会（マルシェでの懇親会のような）をもう少し増やせばいいと思う。

人文：ピア・サポートの先輩が自分が1年のころの時間割があいまいで、思い出すのが大変そうで申し訳なかったのもやりたい人は覚えておくべき

人文：特に相談したいとかはないけれど、一緒に弁当食べたかったです…。

人文：自分が行きたいコースの先輩の話をもっと聞けるといいと思います

人文：自分の進むコースの先輩にサポートしてほしい

人文：最初の顔合わせ以外で顔合わせがあった方がもっと安心できたと思いました。

人文：コースが違ったり教職をとってなかったりしたので聞きづらかった。

人文：数人のグループに1人の担当がついてくれたが、その先輩が入学式後ほどなくして旅行に行ってしまう、担当の先輩との話し合いが十分にできなかったところが残念だった。担当の先輩の予定調整にもう少し留意してほしい。

人文：難しいことだとは思いますが、自分の進み

たいコースの先輩を最初から話したかった。

人文：自分のすすみたいコースの人をつけてほしい。

言文：教職をとっている人など、自分が取りたい科目となるべく同じものをやっている人に聞きたい

言文：希望の言語の先輩・教職の有無など自分の希望にあったピアサポーターさんだともっと良いと思います。

言文：行きたいコースのことがあまり知れなかったこと。

言文：自分の進みたいコース・学環所属の方に会えたらいいが。サポーター同士のつながりがあると良いのかも？

言文：自分の希望先の先輩についていただけるかどうか分からないことです。

言文：私のところは親切に世話をしてもらえたが、他のグループがどうなっているのか不明なところが気になる

言文：自分の希望する子t-巢の先輩にピア・サポートしてもらいたいです。

言文：グロ文に進もうと思っているが、ピアサポーターさんが日文の人であり詳しい話を聞けなかった。

言文：担当してくれる先輩が自分の進みたい専攻と違って、専攻科目の履修などの相談がしにくかった。

言文：実際にあって相談→授業開始までが短すぎて、急に決めることになった授業があった。やはり自分の進みたいコースの先輩についてももらいたい。

言文：自分の志望するコースの先輩がサポーターになるように配慮したらいいと思います。

言文：自分の望むコースの先輩についてもらえない

言文：自分の進みたいところの先輩に当たらないところ。

言文：自分が行きたいコースの先輩の話をもっと気軽にききたかったです。

言文：例えば、1年性が英文志望だが、サポーターが日文だったりすると、授業などの点で詳しい話が訊けない。

言文：希望のコースの友達や先輩と一緒になりたかった。

言文：私のピアサポーターの方はとても親身になってくれましたが、個人差がありそうです。

言文：実際にピア・サポートの方とおちついて話をする機会がなかったので少し残念でした。

言文：学科、志望コースが同じ先輩についてほしい。

言文：自分の行きたいコースの先輩を指名できるようにしてほしい。

言文：3年生にわざわざ助けてもらうのが申し訳なくて連絡できませんでした…

言文：正直、先輩の側から何かしらのコンタクトを取って欲しいと思いました。1年生から連絡するのはとてもハードルが高いです。3年生ともなればお忙しいのは分かりますが、一度会っただけというのはどうかと。

言文：4月でほぼつながりがなくなるので、9月ごろにもう一度相談をできる機会があるとよい。

言文：コースによってはわからないことがあった。あまり会えなかった。

言文：あたった人によって良い悪いは多少あるかもしれない…だが私はとても有難かった

言文：自分が希望する専攻の先輩についてほしかった。

言文：4月だけでなく継続的にサポートが続いたらもっとよかったなと思いなす

言文：自分の志望と違うコースの先輩だとあまり相談できなかった。

言文：先輩が忙しくあまり集まりがなかった。

言文：ピアサポーターと新入生のカリキュラムが一致している方がよい。

言文：はじめの頃もう少し連絡が欲しいなと思いました。

言文：言語文化の場合、2年次以降の希望コースとサポーターの方のコースが必ずしも一致しないこと。

言文：志望コースの違う先輩だとあまり詳しく聞けない

言文：1年次は強制的にグループ分けされ、そのグループの先輩が担当になってしまいう点

言文：私はたまたま進みたいコースの先輩が

ピア・サポートだったのでよかったです  
が、そうではない人は大変そうでした。

人社：接点がありません

人社：自分が進みたい真とに進んでいる先輩  
ではなかったの、ちゃんの担当決めをし  
てほしい。

人社：まず最初の週に何の授業をとるかがわ  
からなくて困っているのだから、その時期  
に重点的にサポートしてほしい

人社：それぞれの行きたいコースの人の話を  
くわしく聞けるようにしてほしい

人社：自分の志望コースでない先輩につかれ  
てもどうしようもない。

人社：履修の仕方が変更になった部分がある

### 2013年度（52名回答）

人文：誰が何学科でどういうことを説明でき  
るのかわかりやすくしてほしい

人文：聞きづらかった

人文：あまり精力的に勉学に励んでいるとい  
う感じのしないサポーターの方がいたこ  
と

人文：もう少し行事(イベント)があったほう  
がいい

人文：サークルの勧誘を何度もされ断りづら  
かった。正直メアドを教えてしまったばか  
りに…と思った

人文：進みたいコースの先輩についていた  
きたかった

人文：志望先のコースの先輩とあまりお話を  
する機会がなかった

人文：先輩にメールしづらい、一学年上の先  
輩ならまだメールできるが二学年上だと  
気が引ける、希望コースと違う先輩が担  
当になり希望コースの情報を集めにくか  
った、行きたいコースが決まっている人は優  
先的に該当するコースの先輩のグループ  
に入れてほしい

人文：個人だとなかなかメールしにくいところ  
があるので懇親会のようなものの回数を  
増やしてほしい

人文：希望の学科の先輩につけず、質問をし  
ても答えがもらえないことが多々あった

人文：一年生からはやはり連絡しづらいので  
上級生から定期的に連絡があるとよい

人文：サポーターの人と直接会いにくい

人文：定期的に面談したい

ので、変更後の先輩の授業のとり方などが  
知れると嬉しいです。

人社：行き先が同じ人から話を聞きたい

人社：定期的な会合を決める

人社：メールが何も来なかった。コースでか  
たよりがありすぎる

人社：最初の顔合わせやマルシェへの懇親会  
に自分のサポーターの人が参加してほし  
かったです。

人社：もっと早くに担当のピア・サポートの  
人を決めてほしい。担当の人を希望コース  
の人にしてほしい

芸表：もう少し時間が欲しかった。

人文：自分の志望コースとサポーターのコー  
スが異なっているとき、「わからない」の  
一言で終わるのではなく、サポーター同士  
も連絡を取り合って他のサポーターを紹  
介するなどしたほうが良いと思う

人文：自分の進みたいコースの先輩とコンタ  
クトがとりづらい

人文：名簿などで縛らず時間割に近いものを  
経験している先輩と交流が気軽にできる  
ようにする

人文：サポーターの方が自分の行きたいコー  
スの方ではなかったり教職を取っていな  
かったりすると聞きたいことや知りたい  
ことが思うように得られないのがもどか  
しいと思うかどうか…と思うときがあ  
った

人文：歴史と教職について聞きたかったが担  
当者がおられず、地理学コースの先輩が他  
の子に指導しているのを聞くだけだった、  
コース希望ごとに担当を決めるべき

人文：3-4人に一人出なくてもよい、実際に相  
談する人はごく僅かなので学科に二人く  
らいでよい

人文：やはり上級生の方のことを考えるとど  
のタイミングで相談してよいかかわら  
なかった、親しい親しくなった先輩に尋ね  
たり、相談窓口(留学など)を利用した回数  
のほうが多かった、相談してよい時間を明  
確にしてほしい

人文：自分と同じ学科の先輩に取次ぎをして  
いただきたい

人文：ピア・サポートの先輩が必ずしも自分の進みたい方面に詳しいわけではない  
言文：主プロを見据えての説明ができる先輩がいればなお良いと思う  
言文：自分の専攻と同じ専攻の先輩がどの方なのか知りたかった  
言文：4月以降グループの人と全く交流しなくなったので寂しい、懇親会の回数を増やしてはどうか  
言文：先輩と顔を合わせて履修登録する時間を何回かに分けてとってほしい、メールだと言いつらかったり伝えづらいことがあるので  
言文：同じコース、資格取得を目指しているサポーターがいなかったり見つけづらかったりすると辛い  
言文：もっと新入生と積極的に連絡した方が良いと思う  
言文：英文、日文、グロ文などコースごとに分けてもらった方が良いと思う  
言文：先輩自身があまり良く分かってなかった、今年から色々制度が変わったためか？  
言文：メアドを教えたものの1度もメールが来なかったのでメールアドレスの交換の義務化はしなくても良いと思う  
言文：連絡が取れていない友人が困っていた  
言文：授業の組み方に特化してほしい  
言文：もっと活動すべき  
言文：もう少しサポーターとの交流の機会があったほうが良いと思う、懇親会は予定が合わずに行けなかった  
言文：志望コースの先輩とのつながりが欲しい、時間割を組む参考にしたかった  
言文：メールでのやりとりは本当にいらない、こちらが一方的にメアドを聞かされただけ

で質問があっても相手のメアドが分からずに聞けなかった  
言文：特に機能していないように感じた  
言文：希望するコースではないコースの先輩だと相談しきれない場合もある  
言文：自分の目指すコースの先輩だとなお良かった  
言文：もっと気軽に相談したい  
言文：日程が合わず、結局1度も顔を合わせる事ができなかった、もっとみんなが参加できる日にしてくれれば良かったのと思う  
言文：連絡が取りにくい  
言文：先輩に聞いても2年次以降の専攻コースが違うから参考になる意見をもらえなかった  
人社：担当してくださる先輩がランダムで、自分の希望している専攻と同じ専攻を取っている方とお話しする機会が少なかったのは残念でした。  
人社：教職を取らない方が多く、相談できる方がなかなか見つからなかった。教職は教職でまとめていただけるとさらによい。  
人社：いろいろな人と話せない。  
人社：コースが違う先輩が担当になってしまうと相談しづらい部分もあると思う。  
芸表：もう少し人数がいてもいいと思う。  
芸表：2～4年生のおすすめの資料のアンケートの統計資料を配ってくれると分かりやすい。  
芸表：懇談会がもっとも気軽に相談できる場だと感じたので、これからも続けるべきだと思います。  
芸表：同じ学科の先輩の履修例がなるべく多くわかるとよい。

## (6) ピア・サポートで行ってほしい催し

### 2011年度 (66名回答)

人文：どの講座がどんなかんじか口答でもいいので教える会  
人文：進学志望先の上級生との懇談  
人文：就職した卒業生、内定した4年生に話を聞く  
人文：就職した先輩に話を聞く

人文：進学志望先の上級生との懇談  
人文：各コースにすすむ先輩の時間割など、何タイプか知ることができると嬉しいなあとおもいました  
人文：就職した卒業生、内定した4年生に話を聞く

人文：時間割の埋め方例の実演  
人文：懇談会など  
人文：進学先の上級生との懇談  
人文：就職活動中（もしくは終わった）先輩に、授業について聞きたい  
人文：内定した4年生に話を聞く、志望先の上級生との懇談  
人文：就職した卒業生、内定した4年生に話を聞く  
人文：進学志望先の上級生との懇談  
人文：進学先の上級生との懇談  
人文：進学志望先の上級生との懇談、各学年のふりかえりをする、就職した卒業生や内定した先輩の話をきく  
言文：教育実習の実態を聞く会  
言文：進学志望先の上級生との懇談、就職した卒業生か内定した4年生に話を聞く  
言文：違う学科の友人が欲しい、進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学希望先の上級生との懇談  
言文：進学希望先の上級生との懇談  
言文：進学希望先の上級生との懇談をやってほしいです  
言文：英文希望の人は英文の先輩に話を聞けると嬉しい  
言文：就活の生々しい体験談を聞く場  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学志望先の上級生との懇談、就職した卒業生か内定した4年生に話を聞く  
言文：学科のコースの先輩に話を聞く機会があればいいと思います  
言文：どの授業が楽しいか、役立つかなどを幅広い分野の先輩から聞きたいです  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学志望先の上級生との懇談を強く希望  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：学科だけの懇親会をしたかった  
言文：食事会をもっと増やす  
言文：内定した4年生に話を聞く  
言文：グロ文志望の人へのサポートをもっとしっかりして欲しい  
言文：就職した4年生に話を聞く  
言文：就職について話を聞く  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学志望先の上級生との懇談

言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：言語文化学科は、一年の前期から、日文、中文、仏文、英文に分かれること前程で時間割を決めるので、その進学志望先の上級生との懇談は良いと思う。  
言文：1年前期の時間割作成  
言文：学生生活の面だけでなく、就職に関しても心配です。就職活動を経験した先輩に相談にのっていただけると嬉しいです。  
言文：個人的には留学する関係もあって、既に卒業した方も含めて、お話を聞いてみたいと思います。  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学希望先の先輩と交流する機会があると嬉しい。在学中にやっておくべきことや、就職に関する話が聞けるとより有意義になると思う。  
人社：就職活動について、先輩の話を聞く  
人社：就職相談  
人社：懇親会など上級生と関わる機会がもっと欲しい  
人社：就職した先輩に話を聞く  
人社：懇談の回数を増やす  
人社：卒業生に話を聞く  
人社：就職については話を聞いてみたい。自分の学科やコースの先輩がどんな授業をとってその進路になったとか  
人社：就職について  
人社：就職した卒業生に話を聞く  
人社：就活に関するものややってものやってもらいたい  
人社：同じ職業を目指している先輩の話を聞く  
人社：マルシェの懇親会はすごく良かったと思います。お菓子は必須ですね。  
人社：同じ就職先を目指す人との懇談会  
人社：上級生との懇談。院生などにも話を聞けるといい  
芸表：進学志望先の上級生との懇談、就職した卒業生か内定した4年生に話を聞く  
芸表：進学志望先の上級生との懇談  
芸表：進学志望先の上級生との懇談  
芸表：先輩方の進路について教えて欲しい  
芸表：先輩との懇談会を4月にも開くなど  
芸表：内定した4年生に話を聞く

## 2012 年度 (60 名回答)

人文：進学希望コースの先輩や、教職を取っている先輩などと話をする機会が欲しい。  
マルシェでの懇親会でそういう機会があったにはあったが、あまり話せなかった。

人文：進学希望先の上級生との懇談

人文：就職活動のアドバイスをぜひしてもらいたいです。

人文：すべてのコースの先輩が集まっていたら、対談してもらったり相談に乗ってもらう（何を学ぶコースなのか、他との違いが分かったり、比較ができるように）

人文：進学希望先の上級生との懇談

人文：時間割についての相談ができる機会はこの先もつくってほしい。

人文：内定した 4 年生に話を聞く。

人文：2 年生の時のコースを決める相談

人文：上級生に、1 年のうちにしておいた方がいいことや心掛けなど、体験をもとに聞いてみたい

人文：就職した先輩方のお話を聞きたい

人文：進学希望先の上級生との懇談はぜひしてほしいです。

人文：2 年次から分かれるコースについての説明会

人文：実際に公務員に合格した or めざしている先輩から話を聞きたい。公務員の通信講座や塾などは沢山あるが、実際どんなものがよいのか、いつ頃からどのように勉強を始めればよいのかなどをききたい。（よく生協でやっている説明会よりも、学生のリアルな意見がききたい）

人文：自分の進学希望コースの先輩についてもらえるとうれしい。

人文：例 をやってほしいです

人文：後期の時間割についても先輩のアドバイスがほしい

人文：就職した卒業生に話を聞く。

人文：志望コースの先輩との懇親会

人文：コースごとの交流会のようなもの

人文：進学希望先の上級生との懇談

人文：就職活動へのアドバイス

人文：進学志望先の上級生との懇談

人文：就職した卒業生に話を聞く。

人文：進学したいコースの上級生と仲良くなるイベント

言文：就職した卒業生、内定した 4 年生に話を聞く。何年生でもいいので、先輩との交流がほしい。懇親会を定期的にやりたい

言文：進学希望先の上級生との懇談があるといいと思います。

言文：就職した卒業先（志望する業種？別など…）

言文：就職の際のアドバイスもしてもらいたい

言文：就活について聞きたいです。今からやっておいた方がよいことなど教えてほしい。

言文：進学希望先の上級生との懇談、就職した卒業生 or 内定した 4 年生に話を聞く

言文：志望コース別の懇談会などをやってほしい。内定した 4 年生に話をきくという企画も、学科などの割と小さい範囲でやっていただけると先輩に話をききやすい。

言文：進学志望先の上級生との懇談

言文：進学志望先の上級生との懇談

言文：就職した卒業生に話を聞く

言文：希望コース内での懇親会

言文：就職した先輩の話をきく

言文：就職した卒業生に話を聞く

言文：就職した卒業生、内定した 4 年生に話を聞く

言文：進学志望先の上級生との懇談

言文：進学希望先の先輩からどんな授業をとっているのかなどを聞きたい。OG の話もききたい。

言文：進学志望先の上級生との懇談

言文：食事会

言文：進学コースのことでの相談会。就職した卒業生との就職や卒業後についての相談会

言文：社会人の先輩のお話をきく

言文：就職した卒業生 or 内定した 4 年生に話を聞く

言文：テスト前での勉強の仕方

言文：就職のお話はぜひ聞きたいです。

言文：希望する進学先のコースの先輩との懇談会

言文：進学志望先の上級生との懇談、就職した卒業生 or 内定した 4 年生に話を聞く

言文：就職した卒業生の先輩に就職の話を聞

きたいと思います  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学志望先の上級生との懇談、就職した卒業生 or 内定した 4 年生に話を聞く  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
人社：進学志望先の上級生との懇談、就職した卒業生 or 内定した 4 年生に話を聞く

### 2013 年度 (45 名回答)

人文：内定した 4 年生に話を聞く  
人文：自分の進学志望先から卒業した先輩に話を聞く  
人文：自分の進みたいコースの先輩にアドバイスしてもらおう企画  
人文：内定した 4 年生に話を聞く  
人文：内定した 4 年生に話を聞く  
人文：同郷の人で集まる会(県人会的なもの)：緊張している新入生も出身地ねたがわかる人と話せば安心できそう  
人文：進学志望先の上級生との懇談：もう一度自由にいろいろな方のお話をお聞きしたい  
人文：内定した 4 年生に話を聞く  
人文：進学希望先・就職した OG の方のお話を聞きたい  
人文：就職を決めた先輩(特に公務員)にお話を聞きたい  
人文：マルシェでの懇親会はいすに座って相談する形だったので狭かったり移動しにくかったりしたので机だけ用意して立ったまま相談するほうがスムーズだと思う  
人文：コース別の懇親会  
人文：進学志望先の上級生との懇談はぜひやってほしい  
人文：進学志望先の上級生との懇談  
人文：進学志望先の上級生との懇談：具体的にどういことを学ぶのか、1 年のうちに身につけておいたほうがよい知識や習慣を教えてください  
人文：進学希望先、教職や学芸員など資格ごとの懇談  
人文：進学志望先の上級生、資格を取る科目を受けた肩と話ができる機会を設けたほうがよい  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学志望先の上級生との懇談

た卒業生 or 内定した 4 年生に話を聞く  
人社：進学志望先の上級生との懇談  
人社：院生の話を聞く  
芸表：進学志望先の上級生との懇談、就職した卒業生 or 内定した 4 年生に話を聞く  
芸表：就職した卒業生 or 内定した 4 年生に話を聞く

言文：メールではなく掲示板による交流  
言文：就職した卒業生、内定した 4 年生に話を聞く  
言文：進学志願  
言文：就活について  
言文：日文や英文などのコースの先輩のお話を聞きたい  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：自分の進みたいコースの先輩とたくさん話したい  
言文：進学志望先の上級生との座談会など  
言文：時間割登録の時、きちんとできたか確認の一言があると気が楽です  
言文：レポートや卒論の書き方を教えてほしい  
言文：就職した卒業生に話を聞く  
言文：就職  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学志望先の上級生との懇談  
言文：進学志望先の上級生との懇談、卒論の話  
言文：2 年次以降の専攻コースの先輩に質問できるような制度にしてほしい  
人社：進学志望先の上級生との懇談  
人社：就活の話  
人社：内定した 4 年生のお話はぜひ聞きたいです。  
人社：おすすめの授業など  
人社：卒業し院に進んだ先輩の話を聞いてみたい。  
人社：内定した 4 年生の話を聞く。  
芸表：内定した 4 年生の話を聞く。  
芸表：進学志望先の上級生との懇談  
芸表：就職した卒業生、大学院生に話を聞きたい。  
芸表：自分の目指している職種の先輩との懇談会



(7) 来年、あなたはサポーターをやってみたい（やってもいい）ですか？

	2011年度	2012年度	2013年度
(a)はい	14名	20名	16名
(b)頼まれればOK	90名	94名	89名
(c)あまり気乗りしない	60名	50名	55名
(d)いや	11名	26名	22名
(無回答)	4名	2名	3名

(アンケートの質問項目)

2010年度ピア・サポートプログラム 新入生アンケート

学科名\_\_\_\_\_

(1) あなたがサポーター(上級生)から受けたピア・サポートの回数や内容をできるだけ詳しく教えてください。

【メールでのやりとり】 (a)0回 (b)1~2回 (c)3~4回 (d)5回以上

【サポーターと実際に顔を合わせて相談】

(a)0回 (b)1~2回 (c)3~4回 (d)5回以上

【4/16夕方の懇親会】 (a)参加した (b)参加しなかった

【その他：活動内容を具体的にお書きください】

(2) ピア・サポートプログラムは役に立ちましたか？ (○をつけてください)

(a)とても役に立った (b)少し役に立った (c)どちらともいえない

(d)あまり役に立たなかった (e)全く役に立たなかった

(f)サポートを全く受けなかった

(3) 来年以降もこのサポートプログラムを実施した方がいいと思いますか？

(a)是非実施すべき (b)実施した方がよい (c)どちらともいえない (d)実施しなくてよい

((d)を選んだ場合のみ、その理由： )

(4) 4月からのピア・サポートで、役に立ったことや良かったことはなんですか。自由にお書きください。

(5) 現在のピア・サポートの足りないところ、改善して欲しい点などを自由にお書きください。

(6) ピア・サポートプログラムの中で、これからやって欲しいイベントや企画などのアイデアを、思いつく範囲でご提案ください。(例えば、進学志望先の上級生との懇談、就職した卒業生 or 内定した4年生に話を聞く、等)

(7) 来年、あなたはサポーターをやってみたい（やってもいい）ですか？

(a)はい (b)頼まれればOK (c)あまり気乗りしない (d)いや



## II 理 学 部



## 理学部の学生支援の現状

理学部では各学科に、学生支援担当教員を配置し、必要に応じて会合し、各学科での学生支援活動の情報交換を図る体制を整えている。ここでは、理学部各学科での学生支援の取り組みの現状を取り纏めることにより、今後の学生支援に資すことにしたい。

理学部の全学科が全学共通の体制である学年担当教員の配置を行なっているのは、もちろんである。また、理系の特徴でもあるが、全学科で研究室体制を取っているため、4年生以上の学年に対しては、指導教員による学生支援はもちろんのこと、上級生から下級生、あるいは同級生の間での学生相互の、いわゆるピアサポートも実質的に従前から行なわれている。最近では3年生以下の学年に対しても各学科での独自の修学および大学生活に関する学生支援の取り組みが見られるようになってきた。このような現状や新たな取り組みを報告書としてまとめることにより、学科間で参考とし、今後の学生支援活動の充実を図りたい。

以下に、理学部5学科（数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科）での学生支援の体制と具体的な取り組みに大別してまとめた。

## 理学部・数学科における学生支援の現状

### 1) 学生支援体制

#### ● 学年担当教員

学年担当教員制であるが、各学年に教員を補導教員として1人ずつ割り振り、その学年の言わば担任の役割を果たしている。補導教員は1年任期である、学生側から見て、なるべく多くの教員を補導教員と出来るように毎年割り振りを変更している。また、就職・卒業の年である4年生に対しては、学科長が補導教員を担当することになっている。

#### ● スーパーヴァイザー制

数学科ではスーパーヴァイザー制を導入している。この制度は、1年生から3年生までの各学年において、学生2人ずつに1人の教員をスーパーヴァイザーとして割り振って、きめの細かい支援を行うものである。(各学生に対するスーパーヴァイザーは入学式の日に表示され、3年間変わらない。また、学年の人数によっては、例外的に1人の教員に3人の学生が付くことがある。) 4年生になれば、学生は数人ずつに分かれてそれぞれ1人の教員を指導教員として、きめ細かな指導を受けることになるが、入学から4年生になるまでの間は、補導教員の存在だけでは、4年生に対して指導教員が行うような学生支援は受けられない。そこで考えたのが、このスーパーヴァイザー制である。スーパーヴァイザーとしてどのような学生支援を行うかは、各教員に任されており、何か問題が起きたときに適切な対応をするほか、例えば、各種相談に応じたり、学生の要望に応じて自主ゼミの支援をしたりしている。これは少人数教育の利点をフルに活かしたものといえる。

### 2) 学生支援行事

#### ● 新入生懇談会 (4月)

4月の入学式後に、新1年生、編入学生および教員との顔合わせ、学生による自己紹介および教員からの自己紹介および学生生活へのアドバイス等を行っている。

#### ● 新入生セミナー (4月)

ここでは、入学して間もない1年生に対して、新入生どうし、そして新入生と教員や上級生との親睦をはかり、また、大学での学習についてや授業履修上の注意点等について伝え、以後の大学生活への不安を軽減する努力をしている。

#### ● 3, 4年合同親睦会 (11月)

3・4年生向けには、毎年秋に懇談会を開いている。懇談会は、4年生から3年生へ、就職活動のこと、大学院進学のこと、4年生が行っている各ゼミの様子などを伝える場になっている。また、毎回ゲストとして、大学院生と卒業生の何人かに来てもらい、講演会を行ったり、進学後の状況、就職後の状況について3・4年生に話をしてもらい、今後の参考にしてもらっている。

## 理学部・物理学科における学生支援の現状

### 1) 学生支援体制

#### ● 学年担当教員および就職担当

物理学科の公式の学生支援システムは、本学が採用している補導教員（学年担当）のシステムである。1年生から3年生までは担当教員の持ち上がり、4年生は就職係が担当している。学年担当教員は学生の学習や大学生活上の問題についての相談相手になっている。担当教員は、入学式後の物理学科ガイダンスで周知させているが、必ずしも学年担当でない教員にも気軽に話をしに行ってもよいことを同時に周知させている。

#### ● 学生支援ティーチングアシスタント

全学共通と同様の体制を敷いている。

### 2) 学生支援行事

#### ● 新入生セミナー

4年間に履修するカリキュラムについての解説と専門科目間のつながりについて解説を行っている。

#### ● 在来生合宿研修セミナー

例年10月下旬2泊3日での研修を行っている。主に物性関係の院生(修士)の研修であるが、4年生も随時参加してきている。

#### ● 3年生の研究室配属指導

3年生の物理学特別講義。この科目の目的は、早い時期に研究室での研究の様子を眺めさせ、簡単な研究課題を進める事によって、卒業研究への展望の材料にするとともに、就職活動に際の面接等にも役立てるためである。教室とは異なるコミュニケーションがとれるので、学習だけでなく大学生活に関する問題に関してもよい効果が出ている。

#### ● 4年生の卒業研究

4年生は卒業研究のために数名ずつ各研究室へ配属される。発表に向けて課題に真剣に取り組む事で、はじめて、物理の面白さに目覚める学生が多い。レポートを書く段階で、文章の教育、プレゼンテーションのやり方等、講義では出来ない教育がなされている。教員のみでなく研究室のすべての構成員とのコミュニケーションがあるので、大学生活上の問題についても、自然な形で解決の糸口がつかめているように思われる。

## 理学部・化学科における学生支援の現状

### 1) 学生支援体制

#### ● スーパーバイザー制度

各学年の担当教員については、1年生から3年生までは2名の教員が担当し、4年生は、卒業研究を指導する教員を考慮し、学年担当としては学科主任が担当した。また、化学科では、一名の教員が、1年生から3年生までの、それぞれの学年については、1名ないしは3名の学生に対して、スーパーバイザーという役目を担当した。学生からみれば、学年担当教員2名また、スーパーバイザー1名と、3名の教員が、様々な相談の担当した。学年担当とスーパーバイザーのその役目には差を設けなかった。学生が学年担当もしくはスーパーバイザーとの相談の時間を特に設定せず、随時、直接面談または電子メールで相談できるようにした。スーパーバイザーと学生の会合として学科は年2回の機会を設けている。

### 2) 学生支援行事

#### ● 新入生研修

毎年入学式直後に実施される理学部と生活科学部の新入生1泊研修においては、引率教員に加えて、その春修士課程一年生になったばかりの、学生に参加してもらい、そのほとんどの時間を、その学生たちが中心になり、4年間の授業の履修方法について、先輩たちの経験談を聞き、アドバイスを受けつつ、1年目の時間割を作成する作業をする。また教員からは、一研究室スライド1枚ないし3枚程度の資料により、研究室紹介を行なう。

#### ● 新入生歓迎会

例年、春の行事として新入生歓迎会を実施している。この行事は2年生が、学年担当と相談しながら企画・実施するもので、同日、新入生歓迎会の前に、修士2年生の中間報告をポスター発表形式で行うことにしており、先輩たちの話から、化学科の各研究室の研究内容に触れる機会を持てるようにしている。またこの会の後半にはスーパーバイザーグループの意見交換会を行い、そこでは、スーパーバイザーの教員と学生の出会いだけでなく、低学年の学生が高学年の先輩たちと繋がりが持てるようにし、その後、何か相談事があるときには、上級生に相談しやすい雰囲気を作るようにしている。

#### ● 化学科研修会

研修会の一つとして、化学科OGの講演会として、講演者の仕事の内容や自身の学生時代の話と、学生たちへのアドバイスなどを含めた話をしてもらっている。招へいする講演者の職業も、特に、研究者に限らず、企業技術者や高校教員など、毎年、幅広い分野から来て貰っている。

#### ● 化学科講演会

化学科の教員との共同研究で国内外から来ている研究者、または、他の用件で東京に滞在する研究者を、お呼びして、学部生が、研究最先端の話題に触れることができる機会を用意した。



## 理学部・生物学科における学生支援の現状

### 1) 学生支援体制

#### ● 学年担当教員

生物学科の学生支援体制の中心は、補導教員（学年担当）システムである。1年生から4年生まで一貫して一人の教員が持ち上がりで担当し、各学生の情報を把握し、学習や大学生活における指導を行っている。

#### ● 学生支援ティーチングアシスタント

博士前期課程の大学院生が学生支援のTAを行っている。新入生セミナーに同伴し、時間割の立て方、学生生活の相談にのっている。

### 2) 学生支援行事

#### ● 新入生懇談会（4月）

4月の入学式後に行う、新1年生、編入学生およびその保護者と生物学科の教員との最初の顔合わせの場である。学生による自己紹介、教員からの自己紹介および学生生活へのアドバイス等を行っている。

#### ● 新入生セミナー（4月）

新入生セミナーにおいて、学習や大学生活に関する心構えを教えている。新入生はTAの支援を受けながら時間割を作成する。教員やTAは、大学生活の様々な相談にものっている。新入生同士の親睦を深める大変良い機会にもなっている。

#### ● 学生懇親会（11月）

生物学科の4年生が手作りの料理により、1、2、3年生をもてなす懇親会である。3年生にとっては、先輩から研究室の情報を聞く良い機会でもある。

#### ● 卒業研究

卒業研究は必修科目ではないが、9割以上の学生が卒業研究を履修している。各研究室に数名ずつの学生が配属し、学生は毎日研究室に滞在し、各自の研究課題に取り組む。研究室のゼミでは、英語の論文等を読んで紹介し、質疑応答を通してその指導を受ける。2月の卒研発表に向けて真剣に研究に取り組むことによって、初めて生物学の面白さに目覚める学生も多い。研究室の構成員とのコミュニケーションを通じて、日常的に、大学生活や進路選択の支援を受けることができる。

#### ● 卒業研究発表会

学科主催の公開の行事である。4年生が、要旨集の作成、会場準備、司会を担当し、卒研研究の内容を発表する。生物学科の教員や学部生、大学院生が主に出席し、適切な質疑応答を行っている。卒業研究発表会に引き続き行う慰労の会は、4年生、大学院生と教員との懇親の場となっている。

## 理学部・情報科学科における学生支援の現状

### 1) 学生支援体制

#### ● 学年担当

各担当教員は、担当学年の学生の状況を出来る限り把握し、学習や大学生活上の問題についての、主な相談相手になっている。特に、1年生の担当教員は大学生活のスタートで、何かと不安持つ学生やつまづきかける学生が他の学年よりも多いため、より多く1年生に接する機会がある1年生への必修科目担当の教員を配置するように配慮している。

#### ● 就職担当教員

情報科学科では就職担当の教員を配置して学生の就職への支援を強化している。就職担当教員は学科への求人会社との窓口であると同時に就職希望の学生の就職へのアドバイザーとしての重要な役割りを果たしている。企業からの面談の積極的な受入れを行い、学生の社会進出の支援を行っている。更に、情報科学科では、就職担当教員を2名体制にすることにより、今まで以上に細かな対応ができるように努めている。

### 2) 学生支援行事

#### ● 入学式後の懇談会および新入生セミナー

入学式後に、学生による自己紹介および教員からの自己紹介および学生生活へのアドバイス等を行っている。また、後日の1泊2日の新入生セミナーにおいては随伴の教員のみならず、上級生も同行し新入生の学習や大学生活に対する説明を行っている。特に、ここでは学科のカリキュラムの説明と共に履修指導を行っている。同行学生からは大学における勉学の方法、さらには、各研究室での研究・教育の紹介も行う。また、1泊2日ながら寝食を共にすることにより、新入生同士の親睦を深める重要な機会にもなっている。

#### ● 在来生合宿研修

毎年、情報科学科の3年生に向け進路ガイダンスとしての1泊2日の合宿研修をおこなっている。3年生ならびに教員は原則全員参加で、さらに各研究室より学生を同行し3年生への各教員の研究室紹介も行っている。プログラムとしては4年生以上の学生が中心となり3年生に向けて卒業研究のための研究室紹介および研究の概説を行なう。大学院進学ガイダンスならびに就職担当教員からは学科としての就職ガイダンスも行う。

更に、懇親会では個別に上級生が進学・就職の体験談、研究室での研究の進め方など3年生の進路に関しての有益なアドバイスや学生どうしの活発な情報交換を行っている。

毎年、3年生からの意見によれば、非常に有益な行事であるとの結果を得ている。3年生どうしならびに上級生との更なる親睦も深まり、学生間の相互支援としての大きな成果を得ている。

### Ⅲ 生活科学部



## 生活科学部ピアサポート活動について（平成23年度～平成25年度）

学部ピアサポート委員会委員長

平成23年度 仲西正（人間・環境科学科 教授）

平成24年度～25年度 太田裕治（人間・環境科学科 教授）

### 1. はじめに

平成16年度に開始したピアサポート活動も本年度末で10年を迎える。以下には平成23年度から25年度における生活科学部ピアサポート活動の取り組みに関し、全学部的観点から記述した。また、従来の活動からの変更点などについても記述した。各学科・講座における個別活動に関しては、本文以降を参照願いたい。

これまでの学部ピアサポート委員会の委員長は、伊藤亜矢子（平成16～17年度）、藤崎宏子（平成18～21年度）、高濱裕子（平成22年度）の各先生方であった。また、本報告に関わる年度における委員会構成は、  
平成23年度 香西みどり（食物栄養学科）、仲西正◎（人間・環境科学科）、篁倫子（発達臨床心理学講座）、永瀬伸子（生活社会科学講座）、徳井淑子（生活文化化学講座）  
平成24年度 森光康次郎（食物栄養学科）、太田裕治◎（人間・環境科学科）、井原成男（発達臨床心理学講座）、永瀬伸子（生活社会科学講座）、難波知子（生活文化化学講座）  
平成25年度 飯田薫子（食物栄養学科）、太田裕治◎（人間・環境科学科）、藤田宗和（発達臨床心理学講座）、マルセロ デ アウカンタラ（生活社会科学講座）、難波知子（生活文化化学講座）  
の各先生方であった（◎は委員長）。紙面をお借りし、本活動へのご理解ご協力に深く感謝致します。

### 2. 学生実行委員会交流会（学部内）について

学部内学生実行委員会交流会は、生活科学部内の学生実行委員、ならびに、教員であるピアサポート委員が集まり、

- ①各学科・講座で独自に行われているピアサポート活動に関して情報を交換する
- ②ピアサポート活動の新たな企画の立案などに役立てる
- ③委員間の親睦を深める

ことを目的に、これまで、平成16年7月14日、平成17年7月7日、平成18年7月7日、平成19年7月10日、平成20年7月2日、平成21年10月7日、平成22年7月16日、平成23年10月28日と毎年開催されてきた。平成23年度の交流会に関しては、学部ピアサポート委員会委員長仲西教授の企画運営のもと、平成23年10月28日（金）18:00～、大学本館カンファレンスルームにて開催された。出席学生からは、

各学科で実際に行われているピアサポートの報告があり、他学科の学生や教員には大変に参考になり有益であった。交流会に各学科講座の学生の参加を求めるためには、開催時刻はどうしても全講義時間帯後の夜間とならざるを得ない。そのため交流会の出席者には軽食が用意されてきたが、そのための予算がある訳ではなく、教授会にてワンコインカンパが募られた。その結果¥22,947円が集められた。学部教員から暖かい支援が得られていると受け止めている。

さて、本交流会のありかたに関しては、学部内ピアサポート委員間で検討した結果、平成24年度以降の開催は見送ることとしてきた。その理由であるが、これまでの計8回の交流会開催を通じて、ピアサポート活動が学部内にしっかりと定着したこと、すなわち、各学科講座において、それぞれの教育上の特徴を生かした実質的な活動が見られるまで成長したと判断された事に依る。ただし、今後も各学科講座の委員間での連絡は緊密に保ちつつ、なんらかの課題・問題が生じ開催が必要となれば全学交流会を再開する事には吝かではない。

### 3. そのほか

ピアサポートの活動経費に対しては、平成24年度から、学部全体で10万円まで補助金が支給される事となった。原資の性質から懇親会にも支出可能であり、たいへんありがたいことである。また、ピアサポート・プログラム報告書（全学）の編集については、平成24年度第1回ピアサポート連絡会（全学組織、平成24年5月24日）において検討の結果、報告書発行は3年に一度と定められ、次号の発行（すなわち本稿）を平成26年3月とすることが決められた。その間、備忘録的に簡易な報告書メモを学生・キャリア支援チームに提出するものの、報告書作成に関わる作業負担は大幅に軽減される事となった。これも多忙な担当教員にとってはたいへんありがたいことである。

本報告書がカバーする年度は、プログラム選択履修制度の開始後（平成23年度）の3年間である。この制度は学部内の履修体制に大きく影響を及ぼしたが、ピアサポート活動はそれに対し概ね有効に機能したと考えている。ただし、運営体制が安定化するまではもう数年必要との考えも示されている。次年度以降も、各学科・講座においては、次ページ以降の記載のごとく活発な活動を行いつつ、お互いに情報交換を行い一層の充実化を計りたい。

以上

## 食物栄養学科ピアサポート活動報告

准教授 飯田薫子

食物栄養学科のピアサポート・プログラム活動には、教員も含めた学生の支援活動として、4月に行われる学部共同開催の新入生セミナーや、8～9月に行われる食物栄養学科独自の在来生セミナーなどがある。さらに、学生が主体となって行う活動として、徽音祭における1、2年生共同のお汁粉屋「ときわじるこ」、3年生が主体的な運営を担う「卒論発表会」と「4年生を送る会」などがある。また学科の学生が主体となって運営する公認学生サークル「Ochas」では、学年をこえてサークルメンバーが様々な社会活動を行っている。

これらの活動は伝統的に受け継がれつつ、よりよいものへと模索しながら、すこしずつ形を変え運営されてきている。学生たちもピアサポートと構えることなく、学生主体の運営行事として主体的かつ積極的に参加し、交流を深めている。以下に主な活動内容について報告する。

### ● 新入生セミナー（4月）と在来生セミナー（夏休み期間）

新入生セミナーは学部合同で開催される公式行事であり、H23～25年度はいずれも4月に、国立女性会館にて1泊で開催された。食物栄養学科では、セミナーに2、3年生の有志が同行し、学科の新入生に対して履修のオリエンテーションや学生生活などの相談を行った。一方在来生セミナーは、2、3年生を中心とした参加希望学生と、教員が参加して行う一泊の研修旅行である。H23、H24年度は9月に、いずれも国立女性会館で行われた。セミナーはスポーツレクリエーションから始まり、夕食後や翌日は懇親会などを通じて、学年を越えての懇親、学業や学生生活、卒論研究の研究室選びについてなど、様々な話題が自由に交わされた。



(写真) 在学生セミナーの様子

なおH24年度は参加を2、3年生以外の学年にも広く呼びかけたところ、1年生や4年生も数多く参加し、総勢117名が参加するセミナーとなった。H25年度は都合により一泊の

研修旅行ができず、代わりに教員と在来生を対象としたBBQパーティーを行った。当日はあいにくの天気ですぐ屋外での開催ができず、急遽室内での立食パーティーとなったが、学生たちが主体となって料理を用意し、在来生と教員の恰好の交流の場となっていた。

- 徽音祭におけるお汁粉模擬店「ときわじるこ」(11月)

徽音祭では例年、1、2年生共同でお汁粉の模擬店「ときわじるこ」を出店しており、H23～25年度も出店を行った。お汁粉の作り方は毎年上級生から引き継がれ、2年生が調理方法を指導し、徽音祭開催前夜より共同で作業が行われる。このような学生の共同作業を通して、学生交互の懇親が深まっているようである。

- 卒論発表会と4年生を送る会(2月)

卒論発表会は教員が運営する学科としての公式行事であるが、会場の設営、会の司会などの運営は3年生が中心となって行う。発表会の前にはあらかじめ学生のみでのリハーサルを行い、4年生が3年生に運営方法を教えるなどの作業を通じて、3年生が来るべき自分の卒論発表についてのノウハウを学ぶ場となっている。また4年生を送る会は、3年生が企画し、3年生が4年生に対する感謝の意を表して行う懇親会である。会において3年生は、100名分近い料理を共同作業によって作製することになる。H23、24年度も例年通り開催され、数々の力作料理が披露された。なお、会には教員も招待され、学生間だけでなく学生と教員間の親睦にも役立っている。(H25年度はH26年2月に開催予定。)

- 学生サークル「Ochas」

学生サークル「Ochas」は、主に食物栄養学科の学生が主体となって運営する公認サークルである。「大学で学んだことを社会活動に生かす」ことを目的に設立され、学生の自主的な運営のもと活動を行っている。H23～25年度も学年を超えて様々な活動を行ってきたが、特に、企業との共同での商品開発やレストランメニュー考案などの活動はマスコミなどにもたびたび取り上げられ、大学の広報活動にも一役買った。



## 人間・環境科学科ピアサポート活動報告

准教授 元岡展久（平成23年度～24年度）

教授 太田裕治（平成25年度）

以下に、平成23年度から3年間の人間・環境科学科におけるピアサポート活動をとりまとめ報告する。

### 1. 各年度における活動内容

#### (1) 平成23年度

以下のごとく学科懇親会（Tea Hours）を中心にピアサポート活動を実施し、教員および各学年間の交流を深めた。なお、Tea Hoursについては、開始当初以来、年度内ごとに番号を振るのではなく通し番号としている。これは記録の意味も兼ねたものである。

【回、日時、場所、テーマなど】

第19回 Tea Hours：平成23年4月21日、16：30～、本館209室、懇親会（新学期のスタートにあたって）

第20回 Tea Hours：平成23年5月26日、17：00～、総合研究棟南側噴水前、新入生歓迎BBQ

第21回 Tea Hours：平成23年7月7日、16：40～本館127室、懇親会（夏休みを前にして）

第22回 Tea Hours：平成23年10月21日、16：30～、総合研究棟806室、懇親会（後学期に向けて）

第23回 Tea Hours：平成24年2月13日、17：00～、本館209室、懇親会（卒論発表会を終えて）

#### (2) 平成24年度

前年度とほぼ同様なスケジュールで学科懇親会（Tea Hours）を実施した。

第24回 Tea Hours：平成24年4月19日、16：30～、本館209室、懇親会

第25回 Tea Hours：平成24年5月16日、15：30～、総合研究棟806室、懇親会（會川名誉教授を囲んで）

第26回 Tea Hours：平成24年6月12日、16：30～、総合研究棟702室、新入生歓迎BBQ

第27回 Tea Hours：平成24年7月20日、16：30～、本館209室、懇親会（夏休みを前にして）

第28回 Tea Hours：平成24年10月19日、17：00～、総合研究棟806室、懇親会

第29回 Tea Hours：平成25年2月12日、17：00～、本館209室、懇親会

#### (3) 平成25年度

報告書執筆中の本年度も、これまでとほぼ同様なスケジュールで学科懇親会（Tea Hours）を実施してきている。

第30回 Tea Hours：平成25年4月19日，16：30～，本館209室，1年生歓迎会

第31回 Tea Hours：平成25年4月26日，16：30～，本館209，3年次生への連絡を中心に

第32回 Tea Hours：平成25年5月30日，17:00～，総合研究棟南側噴水前広場，新入生歓迎 BBQ 大会

第33回 Tea Hours：平成25年7月12日，16：40～，総合研究棟702

第34回 Tea Hours：平成25年10月22日，16：30～，本館209

（予定）第34回 Tea Hours：平成26年2月，（卒論発表会を終えて）

## 2. Tea Hours の企画開催について

教員・学生間の交流会である Tea Hours を2007年度に立ち上げ，年4回程度実施してきた。この催事は学科内で定着し，現在では，教員・学生双方から有効活用されている。出席は当然強制されていないが，授業後のお菓자에誘われてか，毎回30名程度の学生が集まるようである。年間あたりの開催回数は現在では開始当初より若干増加し，年5-6回程度となっている。これまでの慣習から，開催時期としては，①新学期開始時，②新入生歓迎会，③前学期が終わる夏期休暇直前，④後学期開始時，⑤後学期終了時となっている。②については，対象が新入生であるが，大学院生も含めて上級生も多数参加し，例年，遅くまで教員間・学生間で様々な題で話し込む様子が見られ，当学科の恒例行事となった感がある。⑤については，卒業論文の発表を終えた審査講評会の後に実施しており，卒業を前にした4年生を囲んで和やかな雰囲気での交流会が行われている。この年5回の開催をベースとして，例年，1回程度，特別な会が開催されている（退職教員を囲む会，4学期制導入などの説明会など）。また，必要に応じてアンケートを実施するなど，学生の意見集約の場としても機能している。

Tea Hours の開催ペースに関しては，学生からは特段の意見は現在では出ておらず，多くも少なくもなく丁度良いものと考えている。Tea Hours で提供する茶菓子に関しては，これまで，教員によるドネーションであったが，現在は大学からの経費支援を得ており，有り難い限りである。以上，報告するように，当学科ではこの Tea Hours が教員・学生間の交流の場として大変有効に機能していると考えており，今後も，継続活用する考えである。

以上

## 人間生活学科 発達臨床心理学講座ピアサポート活動報告

教授 藤田宗和

本講座では、従来、以下のような学生支援の体制を整え、その中でピアサポート活動を行っていた。すなわち、① 新入生に対するオリエンテーション合宿、② 3年生に対する発達臨床心理学講座独自の合宿、③ 学生同士の運営によるピアサポート活動である。

しかし、平成 23 年度からプログラム選択履修制度が導入され、人間生活学科では、2 年次に主プログラムが決定することとなり、当講座では、2 年生以降に、講座独自の学生支援、ピアサポート活動を行うようになった。それに伴い、当講座における学生支援、ピアサポート活動の内容もかなり変化してきており、ここ 3 年間に於いて、下記のような活動が行われたが、安定した体制が整うまでにはまだ何年か必要と言える。

### 1 新たに主プログラムに参加する新 2 年生に対するガイダンス

H23 年度からプログラム制が導入され、H24 年度から発達臨床心理学主プログラムを選択した新 2 年生に対して、4 月に履修等についてのオリエンテーションを実施している。

### 2 3 年生に対するオリエンテーション

3 年生の 4 月、すなわち本格的に専門を深め、進路を決定しようとする時期に、講読、演習といった各教員の専門領域についてのゼミの内容の紹介、また、研究室選択、卒業論文作成、及び進路決定（進学・就職）に向けて、どのような大学生活を送ったらよいかの助言、指導を行っている。

### 3 学生主体に運営されるピアサポート

上記、1、2 に対応する形で、毎年学生のピアサポート交流委員による自主企画による異学年を含めた交流会、進路相談会を実施している。

#### 【平成 23 年度】

##### <進路相談会>

研究室選択、就職活動当が始まる 11 月上旬に、3 年生を対象として、4 年生が進路（就職、進学）や研究室選択についてアドバイスをしたり、相談に乗ったりする会を開いた。参加人数は 3 年生 15 名、4 年生 15 名であった。

#### 【平成 24 年度】

##### <交流会 兼 新 2 年生の歓迎会>

5 月 10 日に、2、3、4 年生の異学年を含めた学生間の親睦を深めるために実施された。参加人数は約 60 名であった。これは、発達臨床心理学主プログラムに決まった 2

年生，3年次編入生への歓迎会を兼ねて，菓子や飲み物を準備して行われた。3，4年生の先輩学生が，新2年生にこの講座での勉強法を紹介したり，2年生が，先輩学生にこの講座の特徴を質問したりするなどの形で行われ，活発な交流会となった。担当学生からは，毎年継続して行いたいという意見が多く出た。

#### <進路等相談会>

10月26日に進路相談会を実施した。参加者は，就職活動をしている4年生と大学院受験のための準備をしている4年生計10名が協力してくれ，一方，2，3年生は約30名の参加があった。3年生はほぼ全員の参加で，盛況であった。

なお，授業やインターンシップ等の関係で，出席できない学生には，就職希望，大学院進学希望ごとに，後日，該当する4年生に聞けるよう，メールで連絡先を伝えるなど手厚いフォローを行った。

### 【平成25年度】

#### <交流会 兼 新2年生の歓迎会>

6月14日に発達臨床心理学主プログラムに決まった新2年生，3年次編入生を歓迎し，2，3年生が知り合いとなれるような目的で実施した。参加人数は，2年生20名程度，3年生14名であった。昼休みに実施されたため，交流は各自お弁当を食べながら，和やかな雰囲気で行われた。2年生から3年生に対して，履修に関する事，試験に関する事などについての質問がだされた。2年生からは有意義な会であったとの感想が聞かれた。

#### <進路等相談会>

11月13日に2，3年生を対象として，今後の進路・就職，研究室選択について4年生や院生から話を聞く会が実施された。参加人数は，2，3年生が18名，4年生，院生が5名であった，まず，4年生，院生に所属ゼミの様子，卒業論文のテーマなどについての話をしてもらい，その後，2，3年生は各自の志望にしたいが，院進学決定者，公務員内定者，民間企業内定者に個別に質問を行った。お菓子や飲み物を用意し，和やか雰囲気で会は進行し，2，3年生からは，様々な進路が決定している先輩の話が聞けたことで，非常に有意義であったとの感想が聞かれた。

#### まとめ

この3年間の発達臨床心理学講座のピアサポートをまとめると，着実に先輩から後輩へピアサポート活動のノウハウが引き継がれ，毎年，その内容は充実したものとなっているといえる。ただし，講座の学生支援体制と学生主体のピアサポート活動の連携を密にすること，また，OG懇談会など大学全体の学生支援サービス行事との調整をはかり，講座独自のよりユニークで，有意義なピアサポート活動が行われるよう教員側が検討する必要がある。

## 人間生活学科 生活社会科学講座ピアサポート活動報告

准教授 マルセロ デ アウカンタラ

生活社会科学講座のピアサポート委員会は、この3年間に以下のイベントを主催した。

### ○就職活動報告会 先輩との懇談会 (10月)

生活社会科学講座では、毎年10月に4年生による就職活動報告会を実施している。ピアサポート委員会では、その機会を利用し、報告会終了後に、インフォーマルな雰囲気の中、4年生と今後就職活動に挑む3年生との間で就職活動に関する具体的なアドバイスを得る等、情報交換の場として懇談会を開催している。

### ○クリスマス会 (12月)

クリスマス会は、先輩・後輩共にリラックスした雰囲気の中で交流を深める場となっている。特に、1年生の生活社会科学講座希望者に参加を呼びかけている。

### ○インフォーマルゼミオリ (1月)

生活社会科学講座では、3年次になると少人数ゼミ(演習)を選択し、担当教員の指導の下でゼミ論文や卒業論文をまとめる。そのため、毎年1月に新3年生を対象に、教員によるゼミ紹介・オリエンテーションを実施している。ゼミオリの翌日には、ピアサポート委員の学生を中心に、学生同士でインフォーマルなオリエンテーションとガイダンスを行っている。

上記のイベントに加えて、人間生活学科1年生の歓迎会(3講座合同)を行っている(6月)。

## 1. 平成23年度ピアサポート活動内容

### ○人間生活学科1年生の歓迎会 (3講座合同)

・2011年6月

### ○就職活動報告会 先輩との懇談会

・2011年10月

### ○クリスマス会

・2011年12月

### ○インフォーマルゼミオリ

・2012年1月19日(木)

## 2. 平成24年度ピアサポート活動内容

### ○人間生活学科1年生の歓迎会 (3講座合同)

・2012年6月

### ○就職活動報告会 先輩との懇談会

・2012年10月24日(水)

### ○クリスマス会

・2012年12月

○インフォーマルゼミオリ

・2013年1月17日(木)

### 3. 平成25年度ピアサポート活動内容

○人間生活学科1年生の歓迎会

・2013年6月20日(木) 本館306室 17時

○就職活動報告会 先輩との懇談会

・2013年10月23日(水) 本館103室 18時30分

○クリスマス会

・2013年12月17日(火) 本館103室 17時

○インフォーマルゼミオリ

・2014年1月23日(木) (予定)



クリスマス会 (2013年12月17日 本館103室)

## 人間生活学科 生活文化学講座ピアサポート活動報告

平成 23 年度

平成 23 年度は、複数プログラム選択履修制度が始まった年であり、また同時に人間生活学科が、新入生全員を学科の学生として受け入れ、学生は 2 年次に 3 講座の提供するプログラムのいずれかを選択して進学するというシステムへと変更された年であった。そのため 3 講座の選択に関わる情報を発信することが重要であり、ピアサポート活動はその意味で有効に働いたと思われる。3 講座のカリキュラムは、それぞれ個性的であり、その内容を 2 年生が 1 年生に対し具体的に説明する会合が以下のように開かれた。

23 年 6 月、夏休み前に、2 年生を中心として人間生活学科ピアサポート委員が、新入生歓迎会を行い、生活文化学講座、生活社会科学講座、発達臨床心理学講座のそれぞれに分かれて、講座選択の相談や質問に応じた。内容は、授業とその雰囲気、あるいはサークルやアルバイトのことなど、勉学と生活に関する多様な情報の交換の場となり、懇親の場ともなった。  
(徳井淑子)

平成 24 年度

■懇親会—お菓子の家・ビーズアクセサリーの制作—日時：2012 年 12 月 17 日（月）17：00～19：00 場所：大学本館 321 室

学部 2 年生のピアサポート委員が中心となって懇親会を企画し、お菓子の家づくりとアクセサリーの制作を行なった。ピアサポート委員それぞれの趣味や特技を生かして企画され、学生同士で教え合いながら、お互いの長所や性格を知り、交流を深めるよい機会となった。参加者が 2 年生にとどまったことが残念であったが、今年度の 2 年生は複数選択プログラム制に移行して初めての学年であり、同学年で履修の悩みや相談などを話し、親睦を深めることができた点は有意義であった。  
(難波知子)



■卒論・修論発表会の交流会日時：2013年2月7日（木）17：00～19：00 場所：大学本館103室

2012年度の卒論・修論発表会の実施後に、講座の2～4年生を集めて交流会を行なった。企画・運営は3年生のピアサポート委員会を中心とし、発表を終えた4年生をねぎらいながら、在学生同士の交流を深めた。生活文化学講座2～4年生の20～30名が参加し、就職活動や履修などについての相談が活発に行われた。卒論発表の機会を利用したため、参加率がよく、貴重な交流の機会となった。反省点としては、片づけを積極的に手伝う学生が少なかったことがあげられ、準備から片づけまで学生主体となって取り組むよう意識づける必要性を感じた。  
(難波知子)

平成25年度

■キャリア・カフェ日時：2013年7月12日（金）  
17：00～19：00 場所：大学本館135室

平成25年度は被服学同窓会「すおうの会」の後援を得て、各方面でご活躍されているOGをお招きし、これまでのキャリアについてご講演いただいた。講師には、三陽商会の高嶋さゆり氏（平成9年卒）、スタイリストの大日方理子氏（平成14年卒）、チャイルドブック社の井上良子氏（平成17年卒）の3名をお招きした。学部3年生のピアサポート委員会が企画・運営を担当し、生活文化学講座の2～4年生、人間生活学科の1年生、生活文化学コースの大学院生、他講座の学部生、すおうの会などのOG、計28名が参加した。講演では、各講師の在学中の活動から現職に至るまでの体験やエピソードが語られ、活発に質疑応答が行なわれた。その後、この会を通じて知り合ったOGと在学生の間でインターンやOG訪問が行なわれるという成果も生んだ。  
(難波知子)



■就職活動報告・相談会日時：2013年11月15日（金）17：00～19：00 場所：大学本館321室

学部4年生の就職活動の報告とこれから就職活動を行なう学部3年生の就職相談会を実施した。参加者は4年生9名、3年生10名であった。4年生からは、就職活動に関する情報収集の仕方やエントリーシートの書き方など具体的な体験が語られ、これから就職活動を始める3年生へのよきアドバイスとなった。また別室では、大学院進学 of 4年生と進学希望の3年生が集まり、進学についての相談や情報交換を行なった。  
(難波知子)



## IV 全学留学生



## IV 全学留学生

### 全学の留学生のためのピアサポート報告(2011年度、2012年度、2013年度)

教授 加賀美常美代

#### 1. グローバル教育センターのピアサポート

お茶の水女子大学グローバル教育センター(2001年度は留学生センター、2006年度からは国際教育センターとされ、2008年度からグローバル教育センターと改組された)による全学留学生を対象とするピアサポートは、大学院生チューターによる留学生相談室と国際交流グループ TEA の活動がある。

留学生支援は、大学コミュニティの中で留学生が自立を促し、留学目的を果たせるように行う直接的、間接的援助である。文化的背景の異なる留学生支援は、日本人学生とは異なり多様な側面も持つ。そのため、留学生に関連するさまざまな学内部署(保健管理センター、学生相談室など)や指導教員、教職員、チューター、ボランティアが連携しあう必要がある。とりわけ、先輩が後輩に助言などを行うメンターサポート、同輩同士が情報提供などの援助を行うピアサポートの活用は重要である。特に、新入留学生が日本のことを熟知する日本人学生や留学生の先輩から情報を受けることは、ピアサポートの重要な役割である。4月と10月の新入留学生オリエンテーションの時には、留学生相談室チューターはキャンパスツアーを、国際交流グループ TEA は新入生歓迎会(ウェルカムティパーティ)を実施している。

#### 2. 大学院生チューターによる留学生相談室

30年近く伝統のある、留学生相談室は大学院生の運営により継続されてきた。運営の核となるのは、相談室のチューター長と運営メンバー2、3名である。2011年度の運営は、岡村佳代さんがチューター長となり、朴エスターさん、池田聖子さん、和田薫子さんが運営メンバーであった。2012年度は和田薫子さんがチューター長となり、岡村佳代さん、楠原由樹子さん、文吉英さん、田中詩子さん、西澤真奈未さんが運営メンバーであった。2013年度は、前期は和田薫子さん、後期は田中詩子さんがチューター長を務め、運営メンバーは、西澤真奈未さん、文吉英さんであった。詳しいことは3名の報告を参照されたい(pp57-pp62)。

例年のとおり、年に2回(4月はじめと9月末)の新旧メンバーの交代時期と新入生の受け入れ時期に、チューター長が中心となりチューター総会を開き、情報の共有、職務・役割確認、事例検討などを行っている。担当教員は「留学生のサポートについて」というテーマで、留学生の危機、留学生との関わり方、関わる際の注意事項、教員との連携などについて講義を行うとともに、事例検討会での助言を行っている。このように、総会はチューターが相談業務をスムーズに行うためのオリエンテーションと研修会の意味を持つ。

また、2011年度、2012年度、2013年度も教員が新入チューターの個別面接を行い、チューター活動の動機を確認し、積極的に関与してくれるチューターを採用するように努めると共に、資質の向上を促した。

相談室におけるチューターの役割と職務はさまざまである。図書整理、パソコン、懇親会、整理美化、相談室統計、相談室便り発行など、日常のレポートや論文の添削活動のほか、相談室を円滑に運営させるためにさまざまな役割があり、それをチューター各自が担うことで運営がスムーズに進んでいく。日常的にメールリングリストがあり、連絡事項や情報交換が行われている。それを活用することで、チューターが対応に困ったことに対し、即座にチューター長及びチューター同士で助言をしあい、必要に応じて教員がコンサルテーションをすることもある。チューターの中には留学生も3名おり、留学生チューターの意見が留学生のニーズや気持ちを代弁してくれることもあり、非常に重要な存在となっている。

相談室に関する詳しい情報や報告は、留学生相談室だより(15号、16号、17号)を参照されたい。

2011年度、2012年度、2013年度のチューター長の報告の中に、相談件数を挙げている。相談室は8月、3月は休室としているが、2011年度、2012年度は3月末に、2013年度は12月末に集計した相談件数である。大学院留学生の利用者率が非常に高いのが特徴的であるととも、多様な援助ニーズと居場所としての重要であることが見て取れる。



### 3. 国際学生宿舎メンターサポート

新入生受け入れに際し、宿舎で生活していく上で困ったときの先輩メンターとして、同じ寮に居住する韓国、中国出身の大学院留学生 3~4 名にボランティアメンターになってもらい、寮内での生活面での支援体制を強化した。相談内容については、近くの病院や買い物をするための店の紹介、通訳業務など日常的情報提供であった。国際学生宿舎のメンターは、下記のとおりである。

2011 年度前期・後期：韓国、中国、台湾からの留学生 4 名

2012 年度前期：韓国、中国からの留学生 3 名

2012 年度後期：韓国、中国、台湾からの留学生 5 名

2013 年度前期・後期：韓国、ロシア、中国からの留学生 4 名

#### 4. 国際交流グループ TEA

2011 年度の運営は山口真紀子さん(文教育学部)が、2012 年度は池田亜柊さん(文教育学部)、2013 年度は斎藤美咲さん(文教育学部)が代表となり、副代表やメンバーとともに活動を進めてくれた。詳しいことは 3 名の報告を参照されたい(pp63-pp67)。第 10 回、第 11 回、第 12 回の「留学生と日本人学生の国際教育交流シンポジウム(交流合宿)」は、彼らが中心になって活動しており、参加者は毎回 35 名から 45 名程度である。大学における認知度も高くなり、新入留学生の友人形成のきっかけとなっている。以上のように、留学生に関するピアサポート活動は、大学院生チューター、TEA の交流活動、国際学生宿舎のメンターサポートと教員との連携のもとで行われている。

#### 参考資料

お茶の水女子大学 グローバル教育センター (2012) 留学生相談室だより 15 号

お茶の水女子大学 グローバル教育センター (2013) 留学生相談室だより 16 号

お茶の水女子大学 グローバル教育センター (2014) 留学生相談室だより 17 号

お茶の水女子大学 グローバル教育センター (2012) 第 10 回留学生と日本人学生の国際教育交流シンポジウムー留学生と日本人学生の交流合宿-友情の輪を広げよう

お茶の水女子大学 グローバル教育センター (2013) 第 11 回留学生と日本人学生の国際教育交流シンポジウムー留学生と日本人学生の交流合宿-友情の輪を広げよう

お茶の水女子大学 グローバル教育センター (2014) 第 12 回留学生と日本人学生の国際教育交流シンポジウムー留学生と日本人学生の交流合宿-友情の輪を広げよう

## 2011年度 留学生相談室活動報告書

チューター長 岡村佳代

(比較社会文化学専攻 博士後期課程)

### 1. 留学生相談室の現況

#### (1) 開室日

- ・2011年4月6日～2012年2月28日（7月14日～9月25日は夏期閉室期間、12月27日～1月4日は冬期閉室期間）
- ・月曜日～金曜日（午前10:00～午後5:00）

#### (2) 利用者

2011年度（2011年4月～2012年3月）の利用者は、3288名であった。所属別の内訳は表1の通りである。例年に比べ、博士前期課程の学生の利用が増加している。これは、前年に大幅に増加した研究生が博士前期課程に入学後も継続して利用していたことがその理由の1つではないかと推察される。また、昨年度の課題であった理系の学部生の利用者の増加も見られた。相談室の利用者が定着するとともに、利用者の幅の広がりが見られる1年であった。

表1 2011年度（2011年4月～2012年3月）留学生相談室利用者合計

	チューター室	控え室	PC	合計
研究生	139	340	519	998
博士後期課程	125	123	282	530
博士前期課程	221	117	545	883
文教育学部	8	1	44	53
生活科学部	23	13	34	70
理学部	29	74	57	160
日研究生	5	0	151	156
交換留学生	18	53	223	294
その他	2	1	2	5
不明	19	38	82	139
合計	589	760	1939	3288

#### (3) サポート活動内容

留学生相談室は、チューターによる日本語添削、生活相談に加え、パソコンやプリンターの提供、それらの操作補助、図書の貸し出しなどを行っている。また、留学生相談室の向かいにある控え室（交流スペース）は、相談室同様パソコンやプリンターの利用が可能であると同時に、飲食や留学生同士の交流ができる憩いの場として留学生に活用してもらっている。さらに、2011年度は4月当初に相談室、控え室の大幅な改装を行い、これまで以上に留学生が利用しやすく、居心地のよい場を提供するように努めた。年に2回行われる留学生オリエンテーションでは、相談室の紹介や大学内の施設を案内するキャンパスツ

アーを行った。

## 2. 運営の様子

留学生相談室の運営は、大学院生によって行われており、決められた曜日、時間に定期的にサポートを行う曜日チューターが20名いる。チューター長を含む3名の運営メンバー（《前期》チューター長：岡村佳代、運営メンバー：朴エスター・池田聖子《後期》チューター長：岡村佳代、運営メンバー：池田聖子・和田薫子）を中心に、それぞれのチューターが、室内・美化係、会計・図書係、会計・備品係、統計係、相談室だより係といった係を担当しており、日々のサポート活動に加え、各係としての責任を持ち、相談室の運営に携わっている。また、イベント時など臨時にサポートを行うサブチューターもあり、今年度は例年より多い20名以上のサブチューターが登録、活動してくれたことも相談室を円滑に運営していく上で大変大きな力となった。

また、チューター総会を年に2回行い、チューターとしての心得や活動内容を確認することや、これまでの活動の報告や相談を行っている。また、日常的にも連絡ノートやメーリングリストを活用して、報告・連絡・相談を行うなど、チューター間での情報共有を大切にしながら相談室を運営している。

今年度は、東日本大震災という未曾有の災害の経験をした直後からのスタートとなったため、例年とは若干異なるスケジュールであったが、各チューターが責任をもって運営にあたってくれたことで、1年間無事に留学生のサポートを行うことができた。

今後もチューターひとりひとりがチューターとして自覚を持ち、意識の高さを維持していくことで、より充実したピア・サポートを行っていくことが可能になると思われる。

2011年度 留学生相談室曜日チューター名簿（略）

## 2012 年度 留学生相談室活動報告書

チューター長 和田薫子

(比較社会文化学専攻博士前期課程)

留学生相談室は、お茶の水女子大学に在籍する留学生の学業および生活に関するサポートを目的とした場である。2012 年度の開室時間は月曜日から金曜日の 10 時から 17 時までで、土日祝日、8 月（夏休み）、3 月（春休み）は閉室した。

留学生相談室の開室時には 2 名のチューターが常駐している。チューターは日本人チューターと留学生チューターからなり、日本人チューターは主に日本事情や日本語添削のサポートを行い、留学生チューターはこれらに加え、同じ留学生という立場からのサポートを行っている。相談室を利用する留学生の中には、留学生チューターの勤務時間に来室し母語でのサポートを希望する留学生もみられた。

留学生相談室のサポート内容は、日本語添削、生活相談を始め、パソコンやプリンターの利用、図書の貸し出し、および DVD/ビデオ鑑賞の場の提供である。他にも、留学生を対象とした活動の告知やチラシの掲示を行い、留学生を対象とする情報提供を行った。2012 年度 12 月末における留学生相談室の利用者数の合計は 2499 名(表 1 参照)であり、多くの人が様々な用途で留学生相談室を利用していることがわかる。

また、留学生相談室には、チューターが常駐している部屋に加え、留学生のための控え室（交流スペース）もある。2012 年度の控え室の利用者は 626 名(表 1 参照)であり、食事、勉強、歓談等がされていた。このようなことから、留学生相談室はチューターからのサポートを受ける場だけではなく、留学生の居場所としても利用された。

留学生相談室の運営はチューターによって行われている。まず、チューター長を含む 3～4 名の運営メンバーはチューターのシフト調整、勤務管理を含む運営全般の業務を行った。また、各曜日チューターはそれぞれ室内美化・図書係、会計・備品係、統計係、相談室便り係、PC 係となり、より良い留学生相談室のための業務を分担している。また、留学生相談室では共有ノートやメーリングリストを活用し、チューター同士の情報共有、引き継ぎを行っている。

以上のように、留学生相談室では同じ学生であるチューターがピアサポートをしており、留学生にとっては、同じ学生であるからこそ相談できること、話しやすいことがあると思われる。その点が多くの留学生による相談室利用につながっているものと考えられる。そのため、今後も留学生の充実した日本の生活実現へ向けてのサポートを目指し、継続した活動を行いたい。



表1 2012年度（2012年4月～2013年3月）留学生相談室利用者合計

	チューター室	控え室	PC	合計
研究生	120	244	411	775
博士後期課程	122	110	167	399
博士前期課程	222	151	361	734
文教育学部	8	9	14	31
生活科学部	1	5	2	8
理学部	12	25	23	60
日研究生	15	42	160	217
交換留学生	19	30	125	174
その他	6	0	0	6
不明	3	10	82	95
合計	528	626	1345	2499

2012年度 留学生相談室曜日チューター名簿（略）

## 2013 年度 留学生相談室活動報告書

チューター長 田中詩子

(比較社会文化学専攻 博士後期課程)

### 1. 留学生相談室の状況

#### (1) 開室日

- ・2013年4月4日～2014年2月28日（8月6日～9月30日は夏期閉室期間、12月26日～1月5日は冬期閉室期間）
- ・月曜日～金曜日（午前10:00～午後5:00）

#### (2) 活動内容

留学生相談室には2名のチューターが常駐しており、論文やレポートなどの日本語添削、パソコンやプリンターの提供とそれらの操作補助、図書の貸し出し、DVD・ビデオ鑑賞の場の提供などを行っている。また、控え室（交流スペース）は、食事、歓談、勉強などに活用されており、留学生同士の交流の場や居場所となっている。相談室や控え室では、留学生を対象とした活動の告知やチラシの掲示を行い、留学生を対象とする大学内外の情報提供を行った。さらに、4月と10月に行われる留学生オリエンテーションでは、チューターによる相談室の紹介を行い、オリエンテーション後には大学内の施設を案内するキャンパスツアーを実施した。

#### (3) 利用者

2013年4月～12月の利用者は、1518名であった。所属別の内訳は表1の通りである。今年度は、毎月の利用者が前年度までに比べ全体的に少なめであった。特に共通講義棟3号館の改修工事等があったため、年度の始まりと仮設棟への移転直後の10月に利用者の減少がみられた。2014年3月には新しい教室へ移転するため、積極的にチラシを掲示、配布するなどして、留学生相談室の場所や活動についての周知に努めたい。

表1 2013年度（2013年4月～12月）留学生相談室利用者合計

	チューター室	控え室	PC	合計
研究生	107	40	201	348
博士後期課程	120	114	188	422
博士前期課程	99	41	92	232
文教育学部	13	7	26	46
生活科学部	1	0	1	2
理学部	0	5	17	22
日研究生	30	23	200	253
交換留学生	24	71	86	181
その他	0	0	0	0
不明	5	3	15	23
合計	399	304	826	1529

### 2. 活動、運営の状況

留学生相談室は、大学院生の曜日チューターとサブチューターによってサポートが行われている。

曜日チューターは決められた曜日、時間帯に定期的にサポートを行うチューターで20名いる。サブチューターは決められた曜日、時間帯ではなく、曜日チューターがサポートに入れないときなどにサポートを行っている。今年度のサブチューターは前期7名、後期9名と少なめではあったが、積極的なサポート姿勢であったため、大きな力となった。また、チューター長を含む3名の運営メンバー（〈前期〉チューター長：和田薫子、運営メンバー：西澤真奈未・田中詩子 〈後期〉チューター長：田中詩子、運営メンバー：文吉英・西澤真奈未）を中心に、曜日チューターは室内美化・図書係、会計・備品係、統計係、相談室だより係、PC係を担当し、日々のサポート活動に加え、各々が相談室の運営に責任を持って携わった。さらに、チューター総会を前期と後期の開室前に実施し、チューターとしての心得や活動内容の確認、および活動に対する認識や注意事項の共有を行った。日常的には連絡ノートやメーリングリストを活用して報告や連絡、相談をすることで、チューター間での情報共有を心掛けた。

2013年度は8月に仮設プレハブ棟への移転が行われたため、後期は不慣れな環境での活動となった。そのような状況ではあったが、各チューターが留学生にとって来室しやすい環境作りに努め、責任あるサポートを行うことができた。2014年4月からは新しい留学生相談室での活動となる。チューター一人一人が気持ちを新たにすることで、より高い意識による充実したピアサポートが期待される。

2013年度 留学生相談室曜日チューター名簿（略）

## 第10期 2011年度TEA活動報告（2011年4月～2012年3月）

代表 山口真紀子  
(文教育学部)

### TEAの活動報告（2011年4月～2012年3月）

#### 4月上旬 ウェルカムパーティー

留学生オリエンテーション終了後、ケーキやお菓子を用意して留学生との茶話会をおこないました。

#### 4月下旬 歓迎会

#### 9月上旬 お別れ会

#### 10月中旬 ウェルカムパーティー

留学生オリエンテーション終了後、ケーキやお菓子を用意して留学生との茶話会をおこないました。

#### 10月下旬 歓迎会

大山で歓迎会を行いました。20名近くが参加し、にぎやかな会となりました。

#### 11月12日、13日 德音祭

ホットドックの屋台を出店しました。メンバーの懸命な呼び込みの結果、材料の追加が必要となるほどたくさんのホットドックが売れました。

#### 11月19日、20日 第10回国際教育交流シンポジウム

八王子セミナーハウスにおいて、1泊2日の交流合宿を行いました。分科会のテーマは、食文化、観光、学校、ファッションでした。分科会やボディーワークを通して和気あいあいと交流を深めることが出来ました。

#### 3月10日 お別れ会

池袋のお好み焼き屋さんにて帰国する留学生のお別れ会を開きました。

#### 4月6日 お花見

大山付近の桜並木でお花見散歩を行い、桜を見ながら歓談しました。

### 感想

TEAの活動においては自由な雰囲気ですべての留学生と日本人学生とが交流することができました。德音祭や国際交流シンポジウムなどの行事も交流のいいきっかけとなりました。一方で、何も行事がない月を多くつくってしまったことについては反省しています。恒例化した行事に加え、季節のパーティーや史跡の散策などを計画し、より交流の機会を増やしていくべきだったと思います。

TEAの新たな動きとしては、従来行事などの連絡手段としてメールリストを用いていましたが、近年はSNSとの併用になっていることが挙げられます。これにより行事の計画や伝達がより簡単になり、日本人学生や留学生自身による行事の誘いと自発的な活動が活発化したように感じます。自発的な交流活動が増え、これからのTEAの活動もさらにいきいきとしたものになっていけばと考えています。

## 第 11 期 2012 年度 TEA 活動報告 (2012 年 9 月～2013 年 1 月)

代表 池田亜柊

(文教育学部)

### TEA の活動報告 (2012 年 9 月～2013 年 1 月)

#### 10 月 留学生オリエンテーション・ウェルカムパーティ

今年は留学生オリエンテーションに参加して TEA の紹介は行わなかったが、大学の一教室でウェルカムパーティを主催した。昨年度、椅子が足りなかったことを反省して今回は十分な広さのある教室を借りた。TEA のメンバーではないが国際交流に興味のある学生が多く参加し、また前学期からいる留学生たちが運営を手伝ってくれた。

#### 10 月 新留学生歓迎会

池袋で 10 月からの留学生のための歓迎会を兼ねて親睦会を行った。まだ名前を把握しあっていないメンバーもいたが、一緒に鍋を食べながらお互いのことを話し親密になるいい機会になった。

#### 11 月 徽音祭にて模擬店を出店 (ホットドッグ)

例年通りホットドッグの模擬店を出店した。事前準備 (宣伝用の看板作りなど) から昼休みに TEA 部屋で集まって留学生と日本人学生で協力し合った。今回はソースを 2 種類に増やしたので調理は大変だったが、見事完売することができた。学園祭のようなイベントは初めての学生もいたので良い思い出になったと思う。

#### 11 月 第 11 回国際教育交流シンポジウム開催 (国立女性教育会館)

今年は埼玉の国立女性教育会館で 1 泊 2 日の合宿を行った。合宿担当の丸山さんを中心に加賀美先生とセンターの方々とも話し合いながら準備を進めた。特に留学生は自分たちの国を紹介する機会ということもあり、はりきって発表の準備をしてくれた。ボディワークで心も体もほぐれて、寝食を共にすることでより絆を深めることができた。

#### 12 月 クリスマスパーティ (大山寮、参加者 20 名弱)

予算を抑えるために大山寮の一室を借りてクリスマスパーティと忘年会を兼ねた会を開いた。料理は中国人の留学生に麻婆豆腐をつくってもらったり、日本人学生でカレーライスをつくったりした。TEA のメンバー以外にも多くが参加し、音楽番組のスペシャルを見ながら盛り上がった。もっと人数が増えたらビンゴやプレゼント交換もできたかもしれないのが心残りである。

### 感想

私は 1 年次から TEA に所属しており、1 年の時から特に仲の良い留学生たちと遊びに行ったりする企画はしていましたが、今回代表を努めさせていただくことになって、初めて学校側と協力したり、より大きな規模のイベントを企画したりしました。そこにはやはり大変さがありますが、広く交友関係を持てることや、1 番に頼ってもらえることには喜びを感じ

ます。他の団体に対する窓口になるときなど責任を感じることもありますが、学生同士で交流を進めていくことに TEA の存在意義があると思うので、頑張ってやり遂げたいと思います。

もちろん私だけでは TEA を運営することはできず、合宿担当の丸山さんと微音祭担当の吉田さんには日々助けられています。反省点としては大規模なイベントをもう少し増やしたいということと、お昼の活動をもう少し活発にしたいということです。TEA が学生たちの心の拠り所のような存在になれるよう精進して行きたいと思います。



## 第 12 期 2013 年度 TEA 活動報告 (2013 年 9 月～2014 年 1 月)

代表 齋藤美咲

(文教育学部)

### TEA の活動報告 (2013 年 9 月～2014 年 1 月)

#### 10 月 留学生オリエンテーション・ウェルカムパーティー

留学生オリエンテーションで留学生に TEA についての紹介を簡単に行った。それに付随して、昨年度のものに倣いチラシをつくった。同日、学生センター棟にてウェルカムパーティーを主催した。留学生はおよそ 60 人、日本人学生は TEA のメンバーを中心に国際交流に興味のある学生が 15 名ほど参加した。前学期からいる留学生たちも積極的に参加してくれたこともあり、交流が活発に行われた。

#### 10 月 ハロウィーン&新留学生歓迎会

池袋でハロウィーンパーティーと 10 月からの留学生のための歓迎会を兼ねて親睦会を行った。およそ 30 人が集まり、初めて顔を合わせる人もいるなか積極的な交流が図られた。多くの留学生はもとより、学年関係なく日本人学生も参加してくれたので幅広くとても実りの多い歓迎会となった。

#### 11 月 徽音祭にて模擬店を出店 (ホットドッグ)

例年通りホットドッグの模擬店を出店した。事前準備は主に日本人学生が行ったものの、当日はシフトを決めて留学生が多く参加してくれた。留学生にメインで呼び込みを行ってもらったところ大盛況で、店の前でお客様との国際交流もありとても楽しんでいた様子だった。混み合う時間帯などは調理が大変であったものの、みんなで協力しながら見事完売することができ、共同作業によって絆が深まることを実感した。しかし 1 日目ではほぼすべて売り切ってしまったため 2 日目の出店をあきらめた。2 日目に調理するのを楽しみにしていた人もいたと思うので、もう少し材料を増やすか、計画的に売るべきだったと反省した。後日、打ち上げパーティーをお好み焼き屋で行い、またその後、希望者でカラオケに行ったことでも参加者同士かなり仲良くなった。そこでは各国の音楽が歌われて盛り上がった。

#### 11 月 第 12 回国際教育交流シンポジウム開催 (八王子セミナーハウス)

今年は八王子セミナーハウスで 1 泊 2 日の合宿を行った。合宿担当の片山さん、高木さんを中心に加賀美先生と富田さんをはじめとするグローバル教育センターの方々とも話し合いながら準備を進めた。今年は史上最多の 41 人の学生が参加してくださったので、8 つのグループに分かれて発表に向けた活動を行った。今年はジェンダーや環境・エネルギーなど真面目なトピックも半分くらい入れたこともあり、難しいと頭を悩ませていた留学生もいたようだった。しかし、グループリーダーを中心にメンバー同士で声掛けをするなどしたことが功を奏し、合宿での発表はどのグループも各国の文化をわかりやすく説明していて、非常に興味深いものだった。最初のボディワークや BBQ、寝泊りはさまざまな学生との交流が進むきっかけづくりを与え、参加者に好評だったので良かった。

## 12月 クリスマスパーティー

池袋で参加者 35 人ほどのクリスマスパーティーを行った。鍋料理で留学生はとても喜んでいて、ビンゴやクリスマスケーキを食べることができなかったのも、私はサンタのような服装をして、参加して下さった方々に小さいお菓子のプレゼントを渡したところ、とても喜んでくれた。

## 感想

TEA の活動を通して、普段大学内であまり会うことのない日本人学生と留学生がイベントと一緒に企画して楽しむことは、かけがえのない学生の思い出になると感じています。また、今回記載したイベント以外にも、個人的に観光をしたり飲み会をしたりすることもあるので、TEA がきっかけとなりそのような交流につながっていることをとても嬉しく思います。

しかし、残念なことに今年は共通 3 号館の改修工事のため、教室が使えないこともあり、昼休みの活動ができなくなってしまいました。また学生たちも日々レポートや宿題に忙しく、昼になかなか集まれないという現状があります。毎日、昼休みに使えた教室がないことは、日常的な交流を少なくとも減らしていると思いますし、また留学生と日本人が気軽に集まれる部屋があるだけでも気分が上がるので、今後改善していきたいです。

運営面でいえば、私はまさか自分が TEA の代表をすることは考えておらず、また他のサークルでも幹部をやっていることもあり、正直に言ってちゃんと運営できるかとても不安でした。しかし、同じ TEA のメンバーや留学生、加賀美先生やセンターの方々を支えてくださるおかげで、とても有意義な活動ができています。いつもきめ細やかなサポートをしてくださり、本当に感謝しています。

私は TEA に参加することで大切な友達と思い出がたくさんできました。今後もお茶大の日本人学生と留学生の交流をより活発にし、両者の学生生活をより楽しく豊かなものにできるよう、活動を頑張っていきたいと思います。



お茶の水女子大学 ピアサポート・プログラム報告書－第5号－

発行年月日 2014年3月31日

発行 お茶の水女子大学学生支援室、ピアサポート・プログラム連絡会議  
(メンバー：作田正明、加賀美常美代、安成英樹、吉田裕亮、太田裕治)

住所 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

事務担当 お茶の水女子大学学生・キャリア支援課

